

(6) スポーツ施設

分類 1 体育館

① 施設概要

市内には、市民の心身の健全な発達や健康維持、生涯スポーツの普及を図ることなどを目的として、旭地域に2施設、海上地域に1施設、飯岡地域に2施設の計5施設を設置しています。

施設全体の延床面積は約10,000㎡で、昭和47年から平成9年にかけて建設されており、築後30年を経過する若しくはまもなく到来する老朽化した建物は3施設存在し、延床面積で約3,000㎡と全体の29%を占めています。それらには耐震診断が未実施の施設が存在し、老朽化、耐震性、両面で大きな課題を抱えています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
72	総合体育館	5,921	1997 (H9)	47	2044 (H56)	耐震性有(新耐震基準建物)
73	青年の家体育館	1,046	1972 (S47)	34	2006 (H18)	耐震診断未実施
74	海上キャンプ場体育館	1,519	1989 (H1)	47	2036 (H48)	耐震性有(新耐震基準建物)
75	飯岡体育館	1,375	1984 (S59)	47	2031 (H43)	耐震性有(新耐震基準建物)
76	飯岡児童体育館	605	1984 (S59)	34	2018 (H30)	耐震性有(新耐震基準建物)

② 利用実態

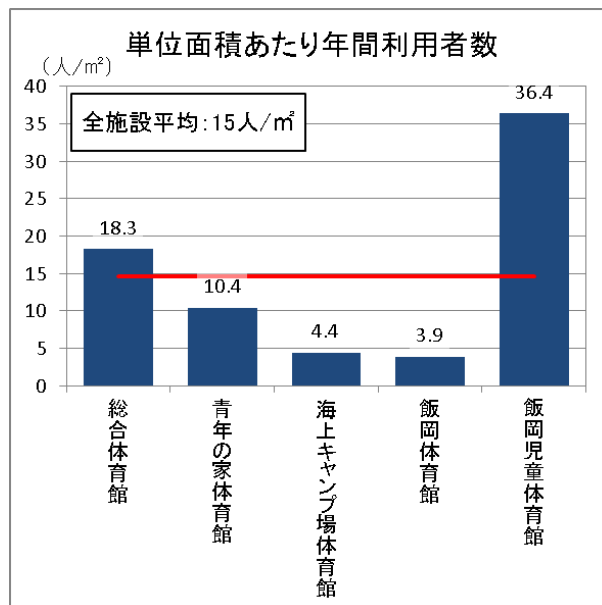
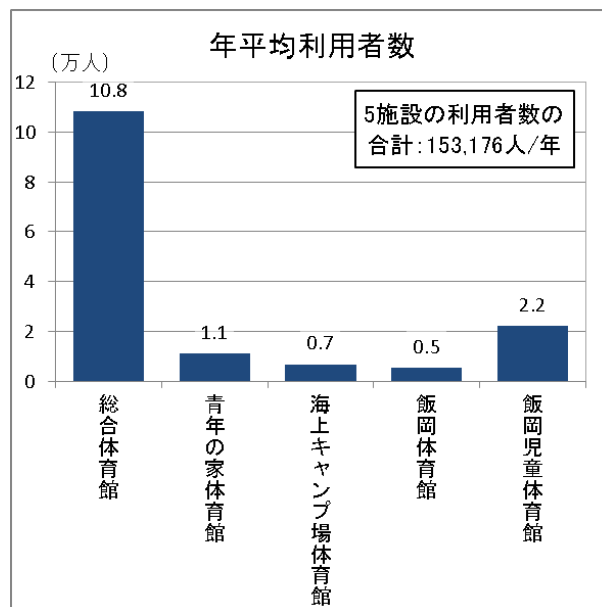
過去5年間(施設によっては2年間)の年平均利用者数を施設ごとに比較すると、最も利用者の多い施設は総合体育館で約10.8万人、次いで飯岡児童体育館で約2.2万人となっており、最も少ない施設は飯岡体育館の5,356人となっています。

最も多い施設と少ない施設では20倍以上の開きがあります。

なお、飯岡児童体育館は、主に飯岡中学校の授業や部活動に利用されており、その利用者数は概数として算出しています。

年間の利用者数を各施設の単位面積当たりで比較すると最も利用者数が多いのは、飯岡児童体育館で36人、次いで総合体育館の18人で、最も少ないのは飯岡体育館の4人となっています。

最も単位面積当たり利用者数の多い施設と少ない施設を比較すると、その差は9倍に及びます。



③ 各施設の利用状況の詳細

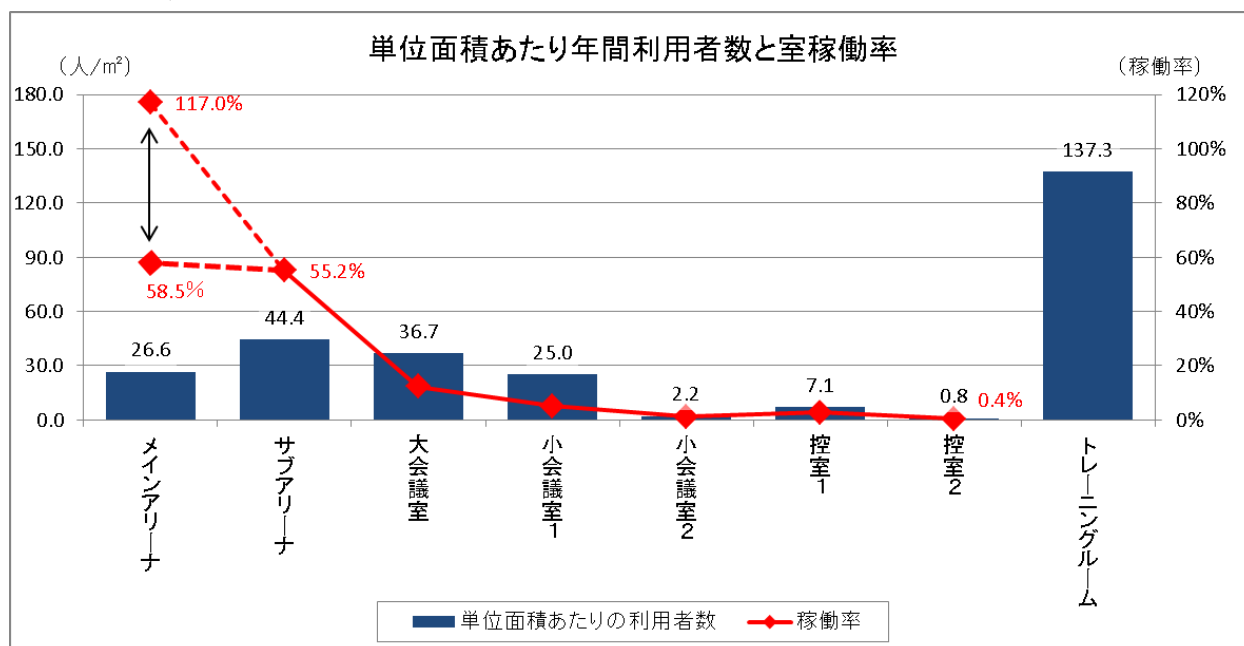
ここでは、複数の部屋を有する総合体育館の部屋別の利用実態を分析します。部屋の稼働率は、年間の総開館時間に対する部屋の使用時間から算出しています。

◆ 総合体育館

過去3年間における施設内の室別の利用状況を比較すると、最も稼働率が高いのはメインアリーナで117%、次いでサブアリーナで55%となっています。メインアリーナの数値が100%を超えているのは、2面等に分割して使用することができるため、利用時間を2重に集計している場合があるためです。全ての利用時間を2重に集計したと仮定しても稼働率は半分の58%と高くなっています。

メインアリーナ、サブアリーナの稼働率が5割を超えているのに対し、各会議室、控え室の稼働率は20%未満と低くなっています。

単位面積当たりの利用者数は、トレーニングルームが137人と最も多くなっています。



室 名	面積 (㎡)	利用時間 (h)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	稼働率 (%)	1日当たりの 利用者数 (人/日)	単位面積当たりの 利用者数 (人/㎡)
メインアリーナ	1,639	4,082	1,712	43,625	117.0	150	26.6
サブアリーナ	513	1,926	860	22,780	55.2	78	44.4
大会議室	78	430	140	2,878	12.3	10	36.7
小会議室1	39	175	61	984	5.0	3	25.0
小会議室2	39	41	19	85	1.2	0.3	2.2
控室1	34	95	24	242	2.7	1	7.1
控室2	30	13	4	24	0.4	0.1	0.8
トレーニングルーム	273	-	35,923	37,533	-	129	137.3

※開館日数 291 日、開館時間 9:00 から 21:00 として算出

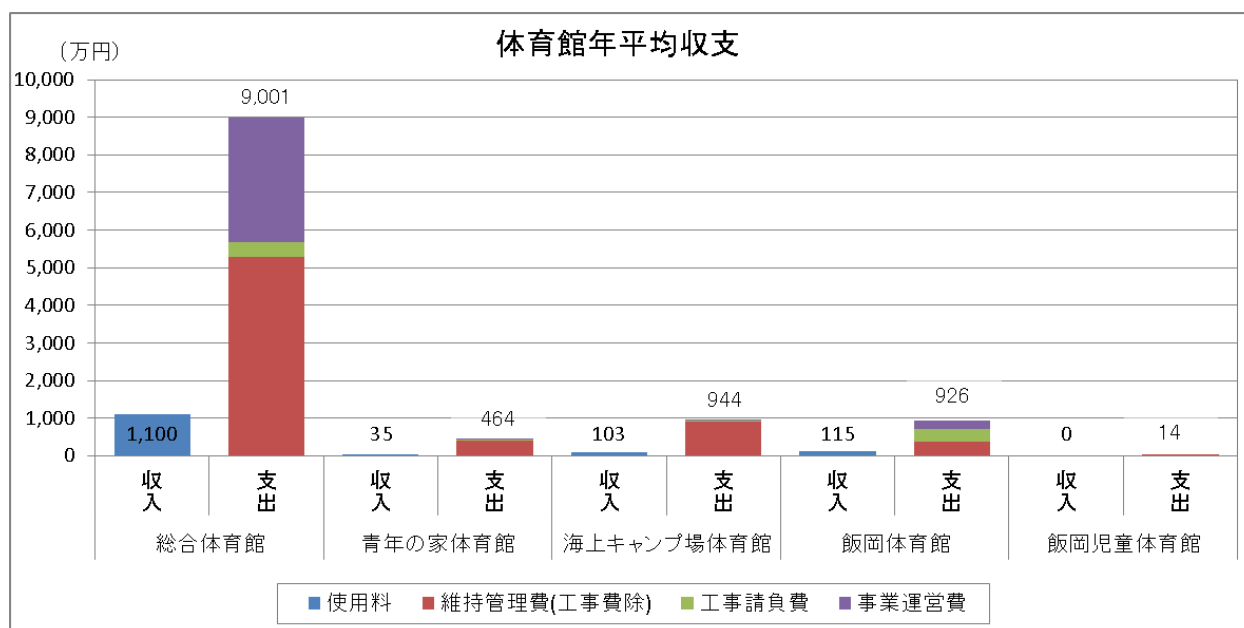
④ コスト分析

過去5年間の施設管理と事業運営にかかる費用の年平均をみると、最も支出が多いのは総合体育館で約9,001万円、次いで海上キャンプ場体育館で約944万円となっています。

全体支出の中に占める施設使用料の割合は、総合体育館、飯岡体育館が12%、海上キャンプ場体育館が11%となっています。

飯岡児童体育館は、主に飯岡中学校の授業や部活動に利用されており、施設管理にかかる費用を学校経費で一部負担しているため、支出が小額となっています。

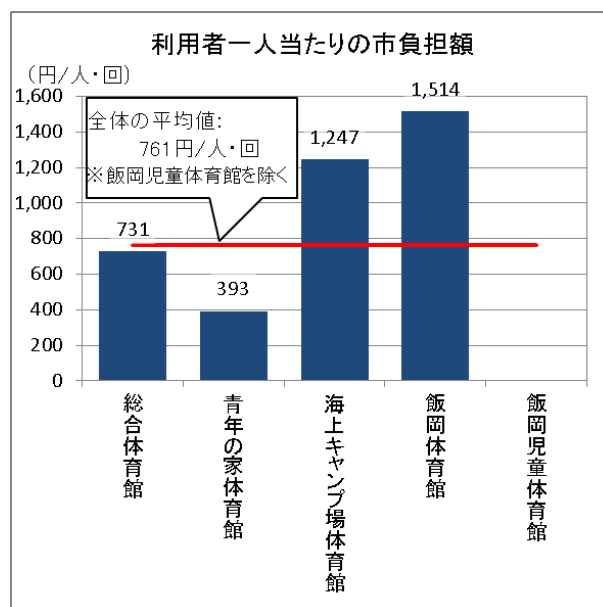
青年の家体育館と海上キャンプ場体育館の収支に関しては、それぞれ隣接する青年の家、海上キャンプ場と延床面積按分により算出しています。



利用者一人当たりの市の負担額を施設別に比較すると、最も負担額が多いのは飯岡体育館の1,514円で、最も負担額が少ないのは青年の家体育館の393円となっており、飯岡体育館と青年の家体育館では、4倍近くの差があります。

利用者一人当たりの平均額は761円となっています。

なお、飯岡児童体育館は、総運営費用算出が困難であったことと、主な利用が生徒対象であることから比較対象から除いています。



利用者一人当たりの市の負担額の大小比較	
飯岡体育館	青年の家体育館
 1,514円	 393円

⑤ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
72	総合体育館		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	2	雨漏りの発生あり。今後防水工事等の改修工事が必要
			バリアフリー対応	5	全て対応済。エレベーター有
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	単位面積当たりの利用者数が多く利用効率性高い。一部稼働率の低い部屋有
			費用効率性	4	利用者一人当たり市負担額が少ない
73	青年の家体育館		構造安全性	1	耐震診断未実施
			建物健全度	1	老朽化の進行有(修繕必要箇所多数)
			バリアフリー対応	1	未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	単位面積当たりの利用者数が平均的
			費用効率性	5	利用者一人当たり市負担額少ない
74	海上キャンプ場体育館		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好。軽微な修繕で対応可能
			バリアフリー対応	4	駐車場対応が不足
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	単位面積当たりの利用者数が少ない
			費用効率性	2	利用者一人当たり市負担額は多い
75	飯岡体育館		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	3	当面軽微な修繕で対応可能
			バリアフリー対応	5	対応済み。エレベーターなし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	単位面積当たりの利用者数が少ない
			費用効率性	1	利用者一人当たり市負担額は最も多い
76	飯岡児童体育館		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	1	老朽化の進行著しい。
			バリアフリー対応	2	一部対応済み
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	5	単位面積当たりの利用者数が多い
			費用効率性	3	未評価

⑥ 分析・課題抽出

◆ 総合体育館

本施設は、平成9年に建設され築後20年未満の新しい施設ですが、建物の状態は雨漏り箇所があるなど、防水工事等を実施する必要があります。今後は建物だけでなく、設備類を含めた大規模改修工事の検討が必要です。施設のバリアフリー化は、すべて対応済みです。

年間利用者数が10万人を超え、市内で最も多くの方に利用されている施設で、特にトレーニングルームの単位面積当たりの利用者数は非常に多く、施設利用者一人当たりの市の負担額は平均以下と、概ね効率的に運営されています。しかしながら、稼働率の低い部屋が見受けられることから、更なる効率的な運営が求められます。

施設運営費の収入となる施設使用料は、全体経費の12%となっています。

◆ 青年の家体育館

本施設は、昭和47年に建設され、築後40年以上を経過し、修繕が必要な箇所が多数存在するなど老朽化の進行が著しい施設です。また、耐震診断が未実施の状況で、バリアフリーへの対応も不足しており、今後の利用にあたっては建て替え(更新)を含めた大規模改修工事等の検討が必要になります。

年間利用者数の約11,000人は、中央小学校体育館の地域開放利用者数と同等で、稼働率や利用効率性に課題があると考えられますが、利用者一人当たりの市の負担額は少なく、概ね効率的に運営されています。

施設運営費の収入となる施設使用料は、全体経費の8%となっています。

施設自体に大きな課題を抱えていることから、公共施設活用方針では、「施設の廃止に向けた検討を行い、現在の利用団体については、総合体育館や学校の施設開放で利用できるよう利用調整を図っていく」こととしています。

◆ 海上キャンプ場体育館

本施設は、平成元年に建設され、築後20年以上を経過していますが、平成21年に千葉県から移譲を受ける際に、屋根等の大規模改修を行ったことで建物の状態は概ね良好です。当面の間は、軽微な修繕で適正な維持管理が可能です。

年間利用者数が約6,800人とやや少ない状況で、利用者一人当たりの市の負担額も多く、利用効率性に課題を抱えています。

施設運営費の収入となる施設使用料は、全体経費の11%となっています。

なお、施設の運営は、これまで市直営で行ってきましたが、平成26年度から指定管理者制度を活用した民間運営へと運営形態が変わります。

◆ 飯岡体育館

本施設は、昭和59年に建設され、まもなく築後30年を経過しますが、近年屋根改修工事等を行ったことで建物の状態は概ね良好です。しかしながら、海岸からの距離が近いため、建物の老朽化の進行は他の施設に比べて早くなることが予想され、適正な時期での修繕工事が求められます。当面の間は、軽微な修繕で適正な維持管理が可能です。

年間利用者数は、小中学校体育館の地域開放利用者数の平均値と同等の約5,400人と少なく、利用者一人当たりの市の負担額も多く、利用効率性に課題を抱えています。

施設運営費の収入となる施設使用料は、全体経費の12%となっています。

◆ 飯岡児童体育館

本施設は、昭和59年に建設され、まもなく築後30年を迎え老朽化の進行が著しく、今後の利用にあたっては大規模改修工事等が必要になってきます。

飯岡中学校の生徒が授業や部活動で利用しており、利用者数も多く、利用効率性は高くなっています。

施設自体に大きな課題を抱えていることから、公共施設活用方針では、「飯岡中学校の改築時に併せて廃止する」こととしています。

分類2 野球場

① 施設概要

市内には、市民の心身の健全な発達や健康維持、生涯スポーツの普及を図ることなどを目的として、旭地域に1施設、海上地域に2施設、飯岡地域に1施設、干潟地域に1施設の計5施設を設置しています。

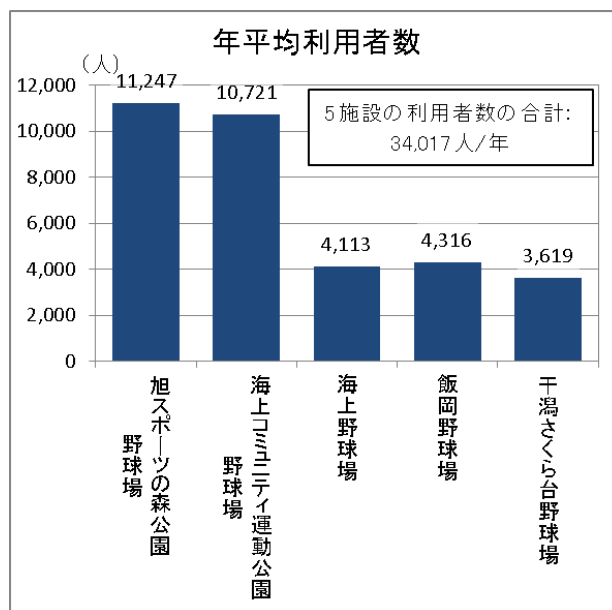
近年建設された3施設は、管理棟などの付属設備の他、ナイター設備を有しています。なお、どの施設も管理室等への職員の常駐はありません。

No.	施設名	敷地面積 (㎡)	建築年	建物耐用 年数	建物耐用期 限	備 考
		延床面積 (㎡)				
77	旭スポーツの森公園野球場	11,650 538	1997 (H9)	50	2047 (H59)	耐震性有(新耐震基準建物) ※ナイター設備有
78	海上コミュニティ運動公園野球場	17,000 438	2004 (H16)	50	2054 (H66)	耐震性有(新耐震基準建物) ※ナイター設備有
79	海上野球場	13,816	1970 (S45)	－	－	
80	飯岡野球場	11,960	1983 (S58)	－	－	
81	干潟さくら台野球場	8,307 165	1995 (H7)	50	2045 (H57)	耐震性有(新耐震基準建物) ※管理棟 ※ナイター設備有

② 利用実態

過去5年間(震災により利用休止していた施設はその期間を除く)の年平均利用者数を施設ごとに比較すると、利用者の最も多い施設は旭スポーツの森公園野球場で、海上コミュニティ運動公園野球場とともに約11,000人となっており、最も少ない施設は、干潟さくら台野球場の3,619人となっています。

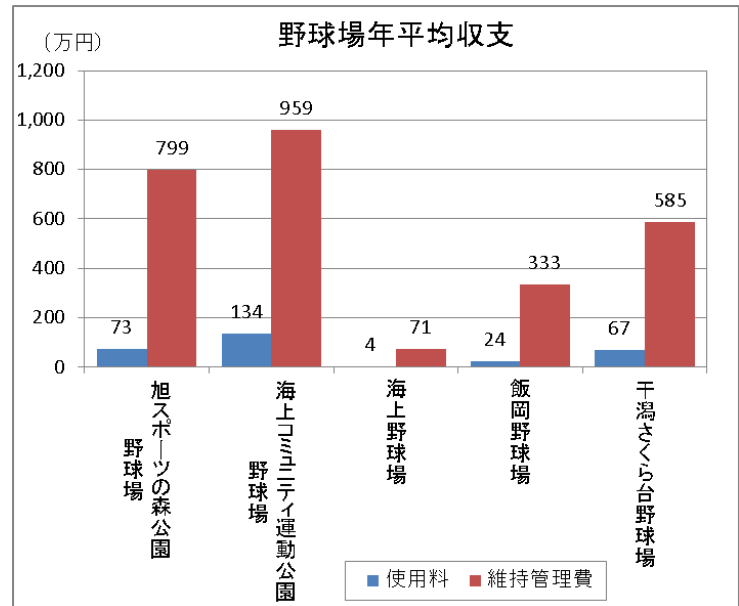
最も多い施設と少ない施設では3倍以上の開きがあります。



③ コスト分析

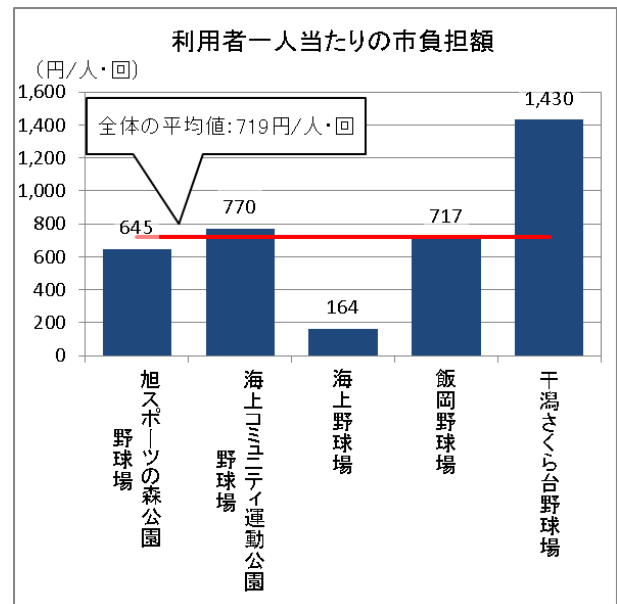
過去5年間の使用料収入と施設維持管理費（震災復旧にかかる工事費を除く）の年平均をみると、維持管理費が多いのは、海上コミュニティ運動公園野球場で約959万円、次いで旭スポーツの森公園野球場で約799万円となっています。

維持管理費用に占める施設使用料の割合は、11%となっています。



利用者一人当たりの市の負担額を施設別に比較すると、最も負担額が多いのは、干潟さくら台野球場の1,430円で、最も負担額が少ないのは、海上野球場の164円となっています。海上野球場と干潟さくら台野球場の負担額では、9倍近くの差があります。

野球場の施設運営にかかる利用者一人当たりの市の負担額の平均は719円となっています。



利用者一人当たりの市の負担額の大小比較	
干潟さくら台野球場	海上野球場
 1,430円	 164円

④ 分析・課題抽出

◆ 旭スポーツの森公園野球場

施設は、平成9年に建設され、築後20年未満で比較的新しく、軟式野球の公式大会を開催できる球場として、管理室、観客席のほかスコアボード、ナイター照明等を備えています。

各種大会に多く利用され、利用者数は年間約11,000人と市内で最も多くなっていますが、使用頻度の高さや経年によりグラウンドコンディションが悪化しており、平成26年度に改修工事が予定されています。

利用者一人当たりの市の負担額は645円と平均的で、施設使用料が施設運営費用に占める割合は9%となっています。

◆ 海上コミュニティ運動公園野球場

施設は、平成16年に建設され、築後10年未満で比較的新しく、軟式野球の公式大会を開催できる球場として、管理室、観客席のほかスコアボード、ナイター照明等を備えています。硬式野球の守備練習も可能な施設で、使用時には管理人を配置しており、グラウンドコンディションを含め適正に維持管理されています。

各種大会に多く利用され、利用者数は年間約11,000人と旭スポーツの森公園野球場に次いで多くなっています。

利用者一人当たりの市の負担額は770円と市内では平均的で、施設使用料が施設運営費用に占める割合は14%となっています。

◆ 海上野球場

施設は、昭和45年に建設され、築後40年以上を経過しています。主にスポーツ少年団の活動の場として利用されていますが、利用者数は、年間約4,100人と少ない状況です。

利用者一人当たりの市の負担額は164円と市内では最も少額で、施設使用料が施設運営費用に占める割合は5%となっています。

◆ 飯岡野球場

施設は、昭和58年に建設され、築後30年以上を経過していますが、震災による休止期間を経てグラウンド等を再整備し現在利用を再開しています。

施設の利用者数は、年間約4,300人と少ない状況ですが、海岸に近く、隣接して体育館、庭球場を備えていることからスポーツ合宿での利用割合が多く、観光機能の役割も備えています。

利用者一人当たりの市の負担額は717円と市内では平均的で、施設使用料が施設運営にかかる費用に占める割合は7%となっています。

◆ 干潟さくら台野球場

施設は、平成7年に建設され、築後20年未満で比較的新しく、ナイター照明等を備えています。また、隣接した庭球場を含め管理棟が設置され、使用時には管理人を配置しており、グラウンドコンディションを含め適正に維持管理されています。

利用者数は、年間約3,600人と市内で最も少なく、利用者一人当たりの市の負担額は1,430円と市内では最も多くなっています。施設使用料が施設運営にかかる費用に占める割合は12%となっています。

分類3 庭球場

① 施設概要

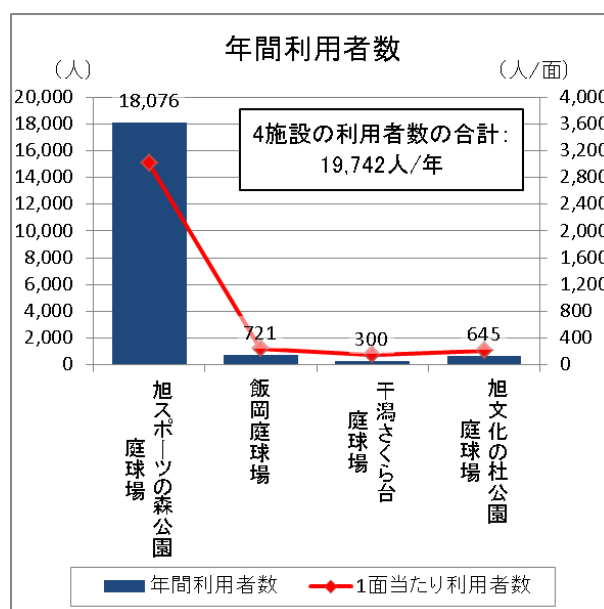
市内には、市民の心身の健全な発達や健康維持、生涯スポーツの普及を図ることなどを目的として、旭地域に2施設、飯岡地域、干潟地域に各1施設の計4施設を、コート数では計14面を設置しています。どの施設も、他のスポーツ施設などと隣接して各地域のスポーツ拠点に設置されています。

No.	施設名	敷地面積 (㎡)	建築年	備 考
82	旭スポーツの森公園庭球場	4,800	1987(S62)	人工芝コート4面 ハードコート2面 照明設備8基
83	飯岡庭球場	2,520	1985(S60)	ハードコート3面 照明設備4基
84	干潟さくら台庭球場	1,287	1995(H7)	ハードコート2面 照明設備6基
85	文化の杜公園庭球場	1,780	2012(H24)	グリーンダスト舗装コート3面

② 利用実態

過去5年間(震災により利用休止していた施設はその期間を除く)の年平均利用者数を施設ごとに比較すると、最も年間利用者の多い施設は、旭スポーツの森公園庭球場で約18,000人、最も少ない施設は、干潟さくら台庭球場の300人となっています。

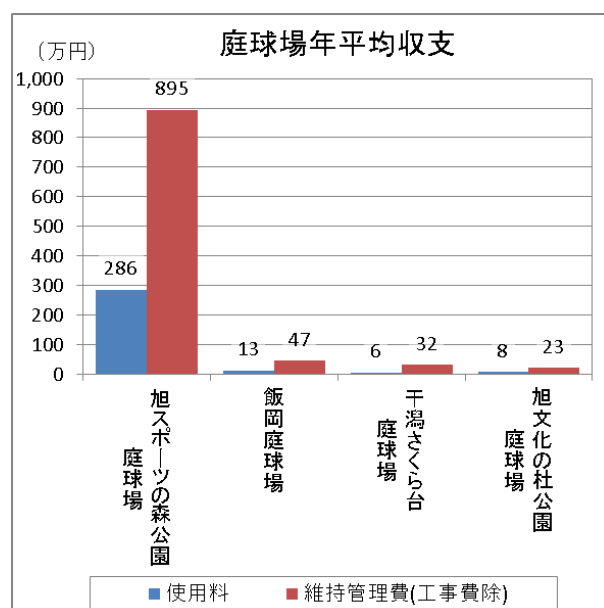
最も多い施設と少ない施設では約60倍の開きがあります。コート1面当たりで比較しても約20倍の開きがあります。



③ コスト分析

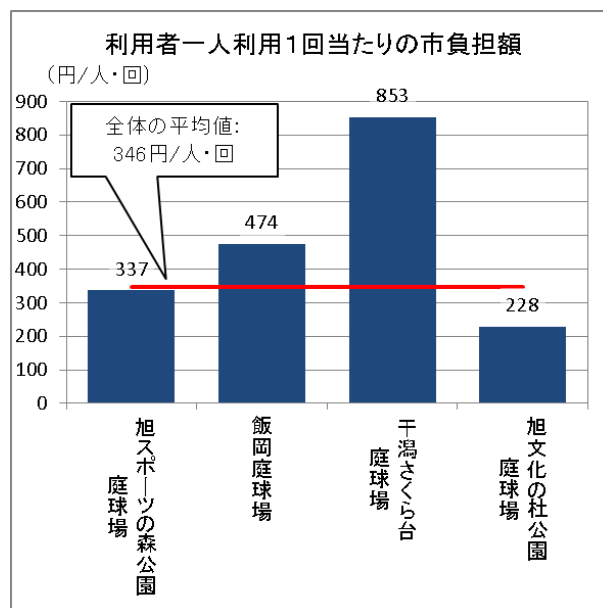
過去5年間(震災により利用休止していた施設はその期間を除く)の使用料収入と施設管理費(震災復旧を含む工事費を除く)の年平均を施設別に比較すると、最も維持管理費が多いのは、旭スポーツの杜公園庭球場で約895万円、最も少ないのは旭文化の杜公園庭球場の23万円となっています。

維持管理費用に占める施設使用料は31%で、他の屋外スポーツ施設の野球場と比較すると収益性が高くなっています。



利用者一人当たりの市の負担額を施設別に比較すると、最も市の負担額が多いのは、干潟さくら台庭球場の853円で、最も負担額が少ないのは、旭文化の杜公園庭球場の228円となっています。干潟さくら台庭球場と旭文化の杜公園庭球場では、3倍以上の差があります。

庭球場の施設運営にかかる利用者一人当たりの市の負担額の平均は、346円となっています。



利用者一人当たりの市の負担額の大小比較	
干潟さくら台庭球場	旭文化の杜公園庭球場
 853円	 228円

④ 分析・課題抽出

◆ 旭スポーツの森公園庭球場

施設は、昭和62年に建設され築後20年以上を経過していますが、定期的にコートを補修し、良好な状態で管理されています。軟式、硬式を問わず公式大会にも活用されています。

施設は、ナイター照明等を備え、利用者数は年間約18,000人と市内で最も多くなっています。

利用者一人当たりの市の負担額は337円と少なく、施設使用料が施設運営にかかる費用に占める割合は32%となっています。

◆ 飯岡庭球場

施設は、昭和60年に建設され、築後20年以上を経過し、震災による休止期間を経て施設を再整備し現在利用を再開しています。

施設は、ナイター照明等を備え、年間の利用者数が約700人と少ない状況ですが、海岸に近いことや隣接して体育館、野球場を備えていることからスポーツ合宿での利用割合が多く、観光機能の役割を備えています。

施設運営にかかる費用の利用者一人当たりの市の負担額は、474円とやや多く旭スポーツの森公園庭球場の1.4倍となっています。施設使用料が施設運営にかかる費用に占める割合は28%となっています。

◆ 干潟さくら台庭球場

施設は、平成7年に建設され、築後20年未満で比較的新しく、定期的にコートを補修し、良好な状態で管理されています。

施設は、ナイター照明等を備え、年間の利用者数が約300人と市内で最も少ない状況です。平成25年度に施設の利用率向上のため、フットサルコートとして利用できるよう改修を

行っています。

施設運営にかかる費用の利用者一人当たりの市の負担額は853円と多く、旭スポーツの森公園庭球場の2.5倍となっています。施設使用料が施設運営にかかる費用に占める割合は19%となっています。

◆ 旭文化の杜公園庭球場

施設は、平成24年に旭文化の杜公園内に建設された新しい施設で、コート面は、グリーンサンド舗装と市内で唯一のクレー系コートを備えています。

年間の利用者数が約650人と少ないものの、施設運営にかかる費用の利用者一人当たりの市の負担額は228円と最も少なくなっており、概ね効率的に運営されています。

施設使用料が施設運営にかかる費用に占める割合は35%となっています。

分類4 その他スポーツ施設

① 施設概要

市内には、市民の心身の健全な発達や健康維持、生涯スポーツの普及を図ることなどを目的として、野球場や庭球場のほか様々なスポーツ施設を設置しています。

いいおかふれあいスポーツ公園内の施設は、震災による仮設住宅建設により現在は利用を休止しています。

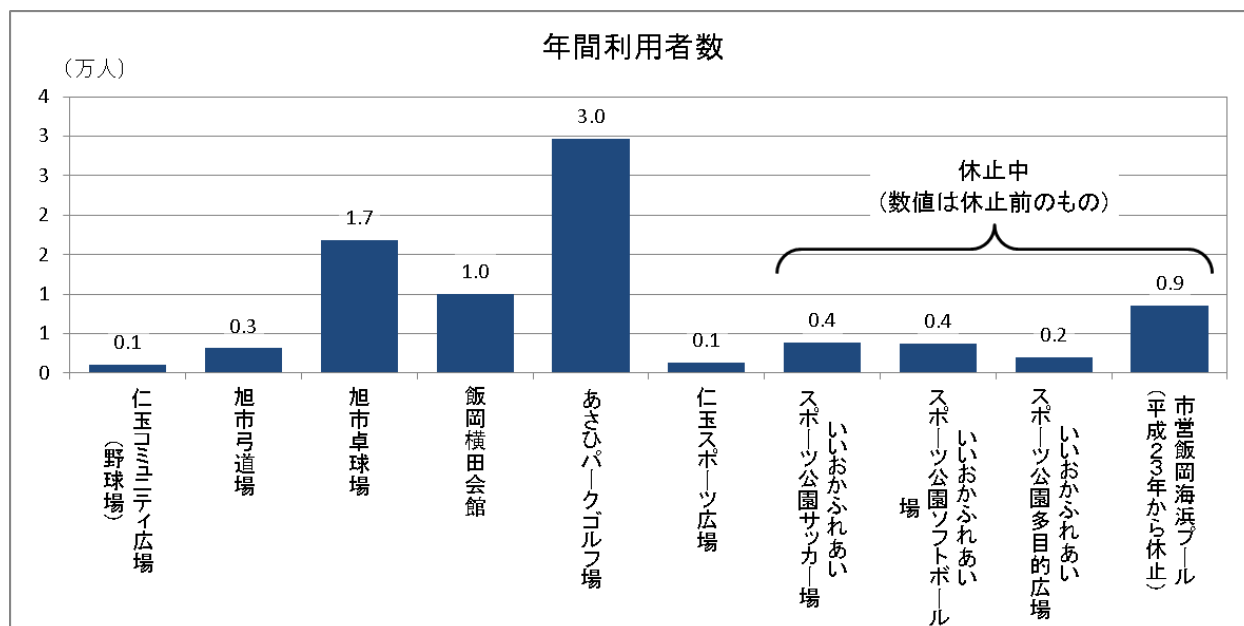
あさひパークゴルフ場は、津波被害により一時休止していましたが、復旧工事を行い現在では利用を再開しています。

市営飯岡海浜プールは、津波被害により現在使用を休止していますが、国民宿舎食彩の宿いいおか荘と併せ平成26年度から再開される予定です。

No.	施設名称	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備考
86	仁玉コミュニティ広場 (野球場)	(敷地) 6,669	1984 (S59)	-	-	
87	旭市弓道場	95	1986 (S61)	38	2024 (H36)	(小規模建物)
88	旭市卓球場	593	1965 (S40)	31	1996 (H8)	耐震診断未実施 卓球コート 15 面
89	飯岡横田会館	543	1956 (S31)	22	1978 (S53)	耐震診断未実施
90	あさひパークゴルフ場	(敷地) 28,394	2008 (H20)	-	-	
	管理棟	468 (222)	2008 (H20)	38	2046 (H58)	耐震性有(新耐震基準建物) ※管理棟は複合施設 ※括弧内は機能対象面積
91	仁玉スポーツ広場	(敷地) 6945	2000 (H12)	-	-	
92	いいおかふれあいスポーツ 公園サッカー場	(敷地) 30,408	1997 (H9)	-	-	平成 23 年から休止
93	いいおかふれあいスポーツ 公園ソフトボール場		1997 (H9)	-	-	平成 23 年から休止
94	いいおかふれあいスポーツ 公園多目的広場		1997 (H9)	-	-	平成 23 年から休止
95	市営飯岡海浜プール (平成 23 年から休止)	-	1970 (S45)	-	-	平成 23 年から休止 ※H26 から再開予定

② 利用実態

過去5年間(震災により利用休止していた施設はその期間を除く)の年平均利用者数を施設ごとに比較すると、あさひパークゴルフ場は年間約30,000人と市内のスポーツ施設の中で総合体育館に次いで利用者の多い施設で、旭市卓球場も年間約17,000人と多くの利用者数があることが確認できます。

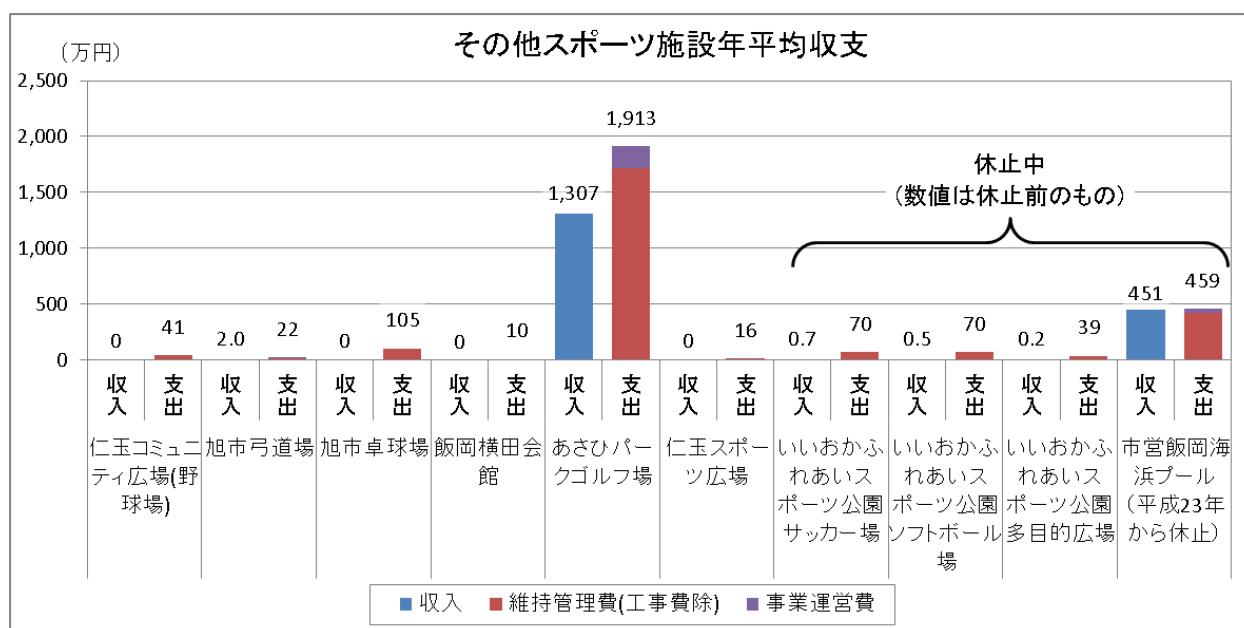


③ コスト分析

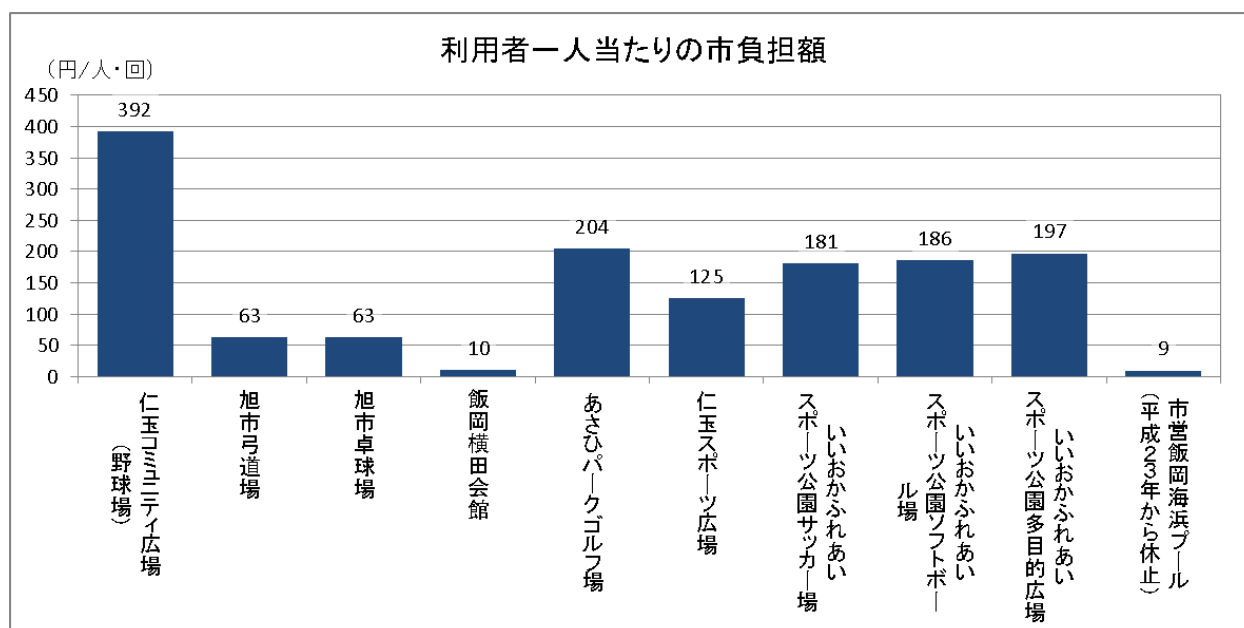
過去5年間の施設管理(工事費除く)と事業運営にかかる費用の年平均(震災による利用休止期間を除く。また、あさひパークゴルフ場は開設年度を除く。)をみると、次のグラフになります。

最も年間の運営経費がかかっているのは、あさひパークゴルフ場で約1,900万円となっていますが、収入も多く、約1,300万円の施設使用料収入があります。

旭市営飯岡海浜プールは、約450万円の運営経費に対してほぼ同額の施設使用料収入があります。その他の施設は、どの施設も概ね100万円以下の運営経費となっています。



利用者一人当たりの市の負担額を比較すると、どの施設も400円未満となっています。



④ 施設評価

建物を有する施設を6つの視点から評価すると以下ようになります。

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
87	旭市弓道場		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	3	当面軽微な修繕で対応可能
			バリアフリー対応	1	未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
88	旭市卓球場		構造安全性	1	耐震診断未実施
			建物健全度	1	老朽化の進行著しい。耐用年数経過
			バリアフリー対応	1	未対応
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
89	飯岡横田会館		構造安全性	1	耐震診断未実施
			建物健全度	1	老朽化の進行著しい。耐用年数経過
			バリアフリー対応	1	未対応
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
90	あさひパークゴルフ場		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	5	全て対応済。エレベーターなし(上下階の行き来なし)
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価

⑤ 分析・課題抽出

◆ 仁玉コミュニティ広場(野球場)

旭市立第一中学校近くに設置され、主にスポーツ少年団の活動の場として利用されています。

施設は、利用団体へ委託により管理されており、市の関与が小さい施設となっています。

◆ 旭市弓道場

施設は、昭和61年に建設され、築後30年未満で、施設の状態は概ね良好です。当面は軽微な修繕で対応可能ですが、今後築年数が30年を超えてくることから、老朽化の進行状況に応じた大規模改修等の検討も必要となってきます。

利用者数は年間約3,000人で、主に旭市弓道協会の練習場として利用されています。

◆ 旭市卓球場

建物は、昭和40年に建設され築後40年以上を経過し、既に耐用年数を超えて利用されています。当初給食センターとして建設した施設を、平成13年に改修し卓球場へ転用し使用していますが、老朽化が著しく耐震診断も未実施の状況です。

施設は、卓球コート15面を備え、主に近隣の第二中学校の部活動や一般の卓球クラブに利用され、利用者数は年間約17,000人となっています。

施設使用料は、従前無料となっていました。類似施設との均衡を図り平成26年度から有料となる予定です。

◆ 飯岡横田会館

施設は、昭和31年に建設され、築後50年以上を経過し既に耐用年数を超えて利用されています。老朽化が著しく耐震診断も未実施の状況です。

飯岡中学校に隣接して設置されており、中学校生徒の授業や部活動で利用されています。

施設自体に大きな課題を抱えていることから、公共施設活用方針では、「飯岡中学校の改築時に併せて廃止する」こととしています。

◆ あさひパークゴルフ場

施設は、パークゴルフ場及び管理棟ともに平成20年に建設された新しい施設です。

年間約30,000人と多くの利用者があり、市民の健康維持だけでなく観光拠点施設としての機能を担っています。

施設の特性上、芝生や樹木管理に多くの費用がかかっています。

◆ 仁玉スポーツ広場

施設は、主にスポーツ少年団の活動の場として利用されています。

施設は、利用者の自主管理のもと市の関与が小さい施設となっています。

◆ いいおかふれあいスポーツ公園サッカー場・ソフトボール場・多目的広場
(平成23年から休止)

施設は、市民やスポーツ少年団の活動の場及び各種大会会場として年間約10,000人が利用しています。現在は、震災による仮設住宅用地として利用されています。

◆ 市営飯岡海浜プール(平成23年から休止)

施設は、昭和45年に建設され、築後40年以上を経過し、老朽化が進行しています。食彩の宿いいおか荘に隣接し、市の観光拠点のひとつとして夏季観光シーズンのみ開設し、約8,500人の利用がありました。津波被害により現在は利用を休止していますが、平成26年度には、施設再開に向けた修繕工事を行っていく予定です。

(7) 産業関連施設

分類 1 農業関連施設

① 施設概要

市内には、市の主要産業である農業に関連した施設が5施設あります。

市民農園は、消費者が自ら育てた作物を収穫する喜びと自然に親しむ場の提供を目的に農園の貸出を行っています。区画数は、2施設で115区画あり、112区画が一般に貸し出され、1区画は学校教育活動用として、2区画は福祉活動用として利用されています。

農産物処理加工センター等は、農業経営の改善や活性化、生産者と消費者との交流促進、旭市産農産物のPRや販路拡大を目的に3施設が設置されています。

No.	施設名	延床面積(㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
96	旭市民農園(鎌数)	(敷地) 6,336	2003 (H15)	-	-	※敷地は借地 83区画(教育用1区画・福祉用2区画)
97	旭市民農園(岩井)	(敷地) 1,490	2003 (H15)	-	-	※敷地は市有地 32区画
98	農産物処理加工センター	194	1992 (H4)	38	2030 (H42)	耐震性有(新耐震基準建物)
99	岩井都市農村交流ステーション	50	2004 (H16)	24	2028 (H40)	耐震性有(新耐震基準建物)
100	農産物直売館	50	1998 (H10)	24	2022 (H34)	耐震性有(新耐震基準建物)

② 利用実態

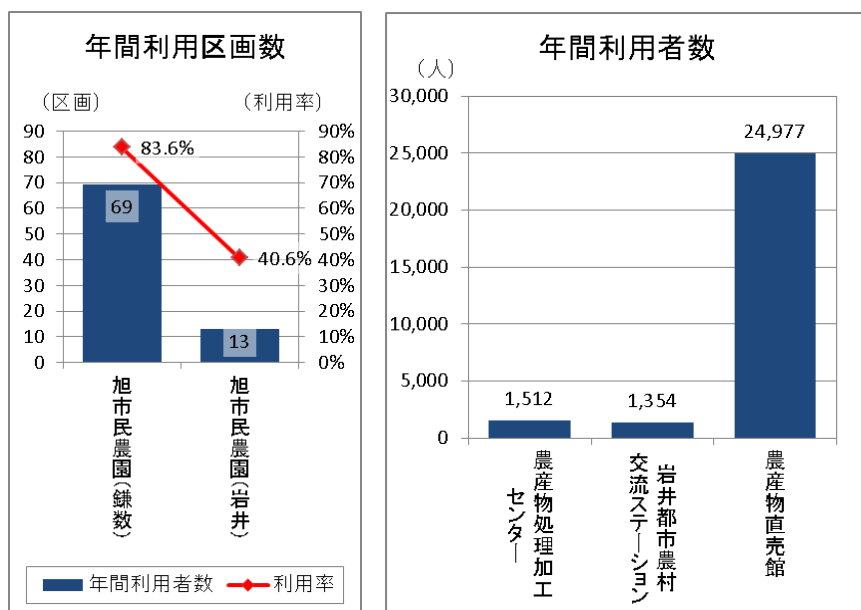
過去5年間の年平均利用者数(市民農園については利用区画数)を施設ごとに比較すると次の2つグラフになります。

市民農園の利用区画数は、旭市民農園(鎌数)で83区画中の69区画、旭市民農園(岩井)で32区画中の13区画となっており、それぞれの利用率では、約84%、約41%と2倍の開きがあります。

農産物処理加工センターは、主に味噌加工と米粉製造に利用され、年間の利用者数は約1,500人となっています。

農産物直売館の年間の利用者数は、約25,000人となっています。

岩井都市農村交流ステーションは、農業体験事業や地元農産物の加工などに利用され、年間の利用者数は約1,400人となっています。

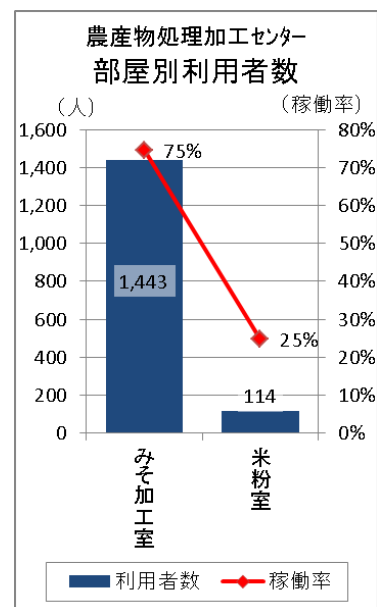


③ 各施設の利用状況の詳細

◆ 農産物処理加工センター

部屋別の年平均利用者数と稼働率を比較すると、みそ加工室は、利用者数で約1,400人、稼働率で75%となっています。稼働率が非常に高くなっていますが、2つのグループなどが重複して利用することが可能なことから、実稼働率は下がります。また、みそ加工のピークとなる9月から3月の稼働率は高いものの、6月から8月の期間は利用がほとんどない状況です。

米粉室の利用者数は年間約100人、稼働率は25%となっています。



◆ 岩井都市農村交流ステーション

本施設には、農産物処理加工センターと同様の加工室を設置し、みそ作りなどに利用されています。加工室の年平均利用者数は170人と農産物処理加工センターに比較し少なくなっています。

施設の運営は、民間に委託しています。

◆ 農産物直売館

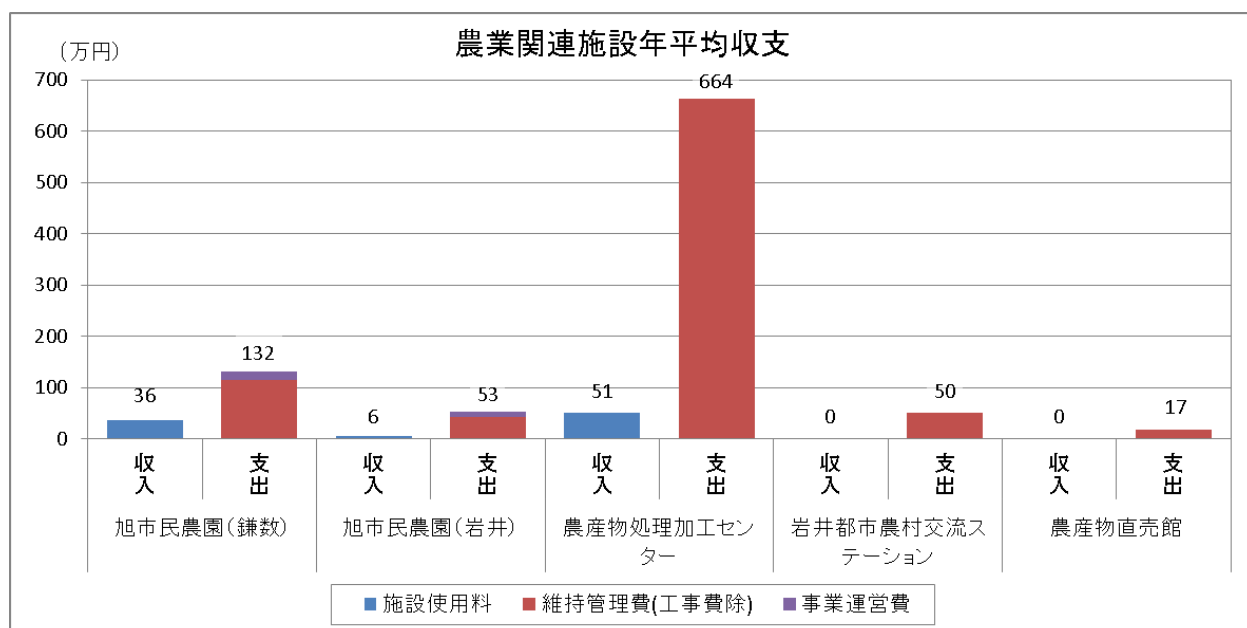
本施設は、市の農産物の直売施設として設置しています。1日当たりの利用者数は70人/日となっています。

施設の運営は民間委託しています。

施設名称	利用者数(人)	開館日数(日)	1日当たり利用者数(人/日)
旭市農産物直売館	24,977	358	70

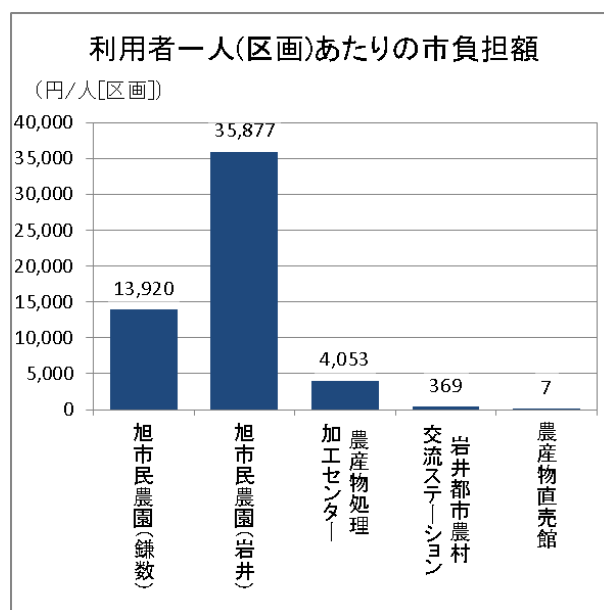
④ コスト分析

過去5年間の施設管理(工事費除く)と事業運営にかかる費用の平均を比較すると、最も施設運営に費用を要しているのは、旭市農産物処理加工センターで約664万円、次いで旭市民農園(鎌数)で約132万円となり、最も少ないのは、旭市農産物直売館の約17万円となっています。



利用者一人当たり(一利用区画当たり)の市の負担額を比較すると、市民農園では、旭市民農園(鎌数)で一利用区画当たり約14,000円、旭市民農園(岩井)で約36,000円と約2.5倍の開きがあります。

農産物処理加工センターでは、利用者一人当たり約4,000円、岩井都市農村交流ステーションで約400円、農産物直売館で約10円となっています。



⑤ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
98	農産物処理加工センター		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好。当面軽微な修繕で対応可能
			バリアフリー対応	1	未対応。製造加工工程にバリアフリー対応困難
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	利用者数多いが、一定期間に利用者が集中し、利用がほとんどない時期もある
			費用効率性	2	利用者一人当たりの市の負担額が多い
99	岩井都市農村交流ステーション		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好。当面軽微な修繕で対応可能
			バリアフリー対応	1	未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	利用者数少ない
			費用効率性	3	利用者一人当たりの市の負担額が少ない
100	農産物直売館		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好。老朽化の進展なし
			バリアフリー対応	1	未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	利用者数多い
			費用効率性	4	利用者一人当たりの市の負担額が少ない

⑥ 分析・課題抽出

◆ 旭市民農園(鎌数)

本施設は、平成15年に袋公園脇に設置され、貸し出し用80区画のほか、教育用1区画及び福祉用2区画を配置しています。施設用地は借地となっています。

区画の利用率は8割以上と高くなっているものの、施設運営にかかる費用も多くなっています。施設運営経費は、除草作業等の維持管理について、民間委託をしているものの市職員の関与が大きいことで人件費部分が多くなっています。

利用率の向上や管理運営方法の見直しなど、効率的な施設運営のための検討が求められます。

◆ 旭市民農園(岩井)

本施設は、平成15年に岩井地区に設置され、32の貸し出し区画を有しています。施設用地は市有地となっています。

区画の利用率は、4割程度と低く旭市民農園(鎌数)の利用率の半分にとどまっていることから、利用効率性に課題があります。施設の維持管理は、職員のほか民間委託による除草作業が多くを占めていますが、隣接する岩井都市農村交流ステーションと合わせて本施設の管理を委託していることで、市職員の関与の度合いは低くなっています。

利用率の向上や管理運営方法の見直しなど、効率的な施設運営のための検討が求められます。

◆ 農産物処理加工センター

本施設は、平成4年に建設され、築後20年を経過する施設で、施設の状態は概ね良好となっています。当面は、軽微な修繕工事に対応が可能な状態ですが、今後の利用にあたっては設備類の更新を含めた大規模改修工事等の検討が必要となってきます。

主にみそ加工や米粉の製粉に利用され、利用者数は年間1,500人程度になります。

みそ加工室は、9月から3月にかけては1日に複数の団体で利用されるなど、利用希望が集中する一方、6月から8月にあっては利用がほとんどない状態です。

今後は閑散期の利用率の向上や繁忙期のスムーズな利用など効率的で利用しやすい環境整備や運営方法を検討する必要があります。

施設運営経費に対する施設使用料収入は、全体経費の8%程度と少なく、利用者一人当たりの市の負担額は、約4,000円と市の負担割合が大きくなっています。

◆ 岩井都市農村交流ステーション

本施設は、平成16年に旭市民農園(岩井)に隣接して設置され、築後10年未満と新しく、建物の状態は良好で老朽化の進展は見られません。

施設は無償貸付のうえ運営管理を民間に委託しています。敷地は民間用地となっています。

利用者は年間1,400人程度で、利用効率性はあまり高くない状況です。

今後は、施設は無償貸付契約期間完了後のあり方の検討が必要となってきます。

◆ 農産物直売館

本施設は、平成10年に建設され、築後20年未満の比較的新しい施設で、建物の状態は良好です。当面、軽微な修繕工事に対応可能な状況ですが、駐車スペースが少なく、バリアフリー対応が不足しているため、利便性に課題があります。

市の農産物や特産物を市内外に広くPRし、販路拡大を目的に設置された施設で、年間の利用者数は約25,000人と多くなっています。

施設の運営は、全て民間委託しており、市の関与は小さくなっています。

分類2 観光関連施設

① 施設概要

市内には、自然観光資源である海岸の観光客の利便性を図るため、監視所やシャワー室、トイレなどの便益施設を2施設配置しています。

また、ヘラブナ専用の管理釣り場として1施設を設置し、観光資源としてだけでなく市民の余暇の活用と健康的な憩いの場を提供しています。

海岸地域の2つの便益施設は、津波の被害により一次利用を休止していましたが、復旧工事を行い現在では利用を再開しています。いずれの建物も築後20年程度と比較的新しく、また、復旧工事にあわせた改修等を行ったことで建物の状態は良好です。

長熊釣り堀センターは、釣り堀や便益施設を平成19・20年度に大規模改修を行い、施設の状態は良好です。また、平成25年4月から指定管理者制度により運営を民間委託しています。

No.	施設名	延床面積(㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
101	ふれあいの海辺便益施設 (椎名内)	112	1992 (H4)	50	2042 (H54)	耐震性有(新耐震基準建物)
102	レストハウス(国民宿舎前)	133	1993 (H5)	38	2031 (H43)	耐震性有(新耐震基準建物)
103	長熊釣り堀センター	132	1988 (S63)	24	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物) 管理棟は1992 (H4) 建設

② 利用実態

海岸地域のふれあいの海辺便益施設(椎名内)やレストハウス(国民宿舎前)は、夏季観光での利用だけでなく、年間を通してサーファーなどに活用され、海岸観光の便益施設としてなくてはならない施設となっています。

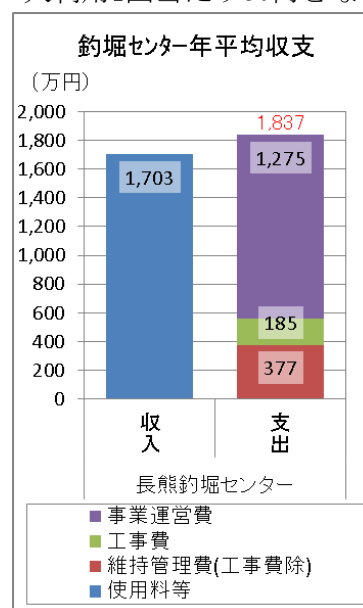
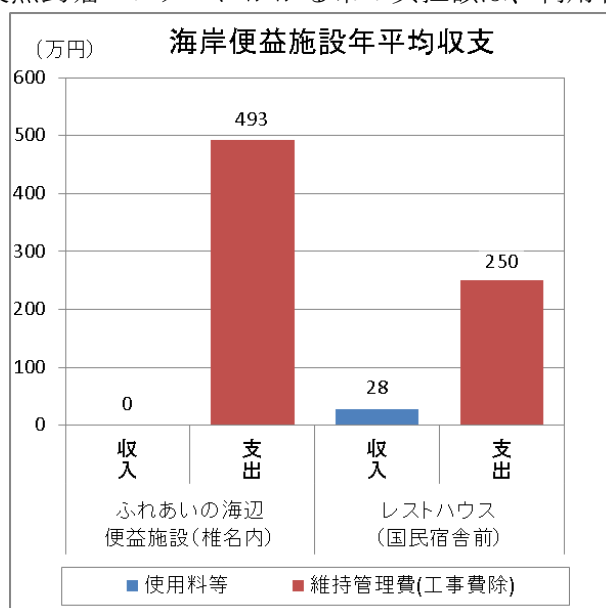
長熊釣り堀センターの過去4年間の年平均利用者数は、約17,000人となっています。

③ コスト分析

過去5年間の施設管理(工事費除く)と事業運営にかかる費用の年平均収支をみると、ふれあいの海辺便益施設(椎名内)では年間約500万円を、レストハウス(国民宿舎前)では年間約250万円を支出しています。また、レストハウス(国民宿舎前)の収入は、自動販売機設置による民間業者からの賃貸収入になります。

長熊釣り堀センターの過去4年間の施設管理費と事業運営費の年平均収支では、施設運営にかかる費用は年間約1,800万円となっており、収入は施設使用料等で年間約1,700万円と運営経費の9割以上を利用者からの施設使用料等で賄っています。

長熊釣り堀センターにかかる市の負担額は、利用者一人利用1回当たり80円となっています。



④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
101	ふれあいの海辺便益施設(椎名内)		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好。老朽箇所改修済み
			バリアフリー対応	2	一部対応済み。多目的トイレなし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
102	レストハウス(国民宿舍前)		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好。老朽箇所改修済み
			バリアフリー対応	5	対応済み
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
103	長熊釣堀センター		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好。老朽箇所改修済み
			バリアフリー対応	4	多目的トイレ設置済。桟橋への車椅子乗り入れ対応済
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	利用者数多い
			費用効率性	4	利用者一人当たりの市の負担額が少ない

⑤ 分析・課題抽出

◆ ふれあいの海辺便益施設(椎名内)

本施設は、平成4年に矢指ヶ浦海水浴場の便益施設として建設され、津波被害からの復旧工事に伴い施設改修を行ったことで、建物の状態は良好です。施設は、監視棟のほかトイレ、シャワー、倉庫を有し、駐車場は海水浴場全体で500台確保しています。

海岸沿岸部に配置されているため、塩害により建物の老朽化の進行が早くなり、定期的な維持補修が欠かせない施設となっています。また、施設の利用状況が、海水浴場開設時をピークとして季節によって大きく変化しているため、利用状況に応じた適正な管理が課題となっています。

近年では、年間を通してサーフィンなどのマリンスポーツ観光客に利用され、海岸便益施設としてなくてはならない施設となっています。

◆ レストハウス(国民宿舍前)

本施設は、平成5年に飯岡海水浴場の便益施設として建設され、津波被害からの復旧工事に伴い施設改修を行ったことで、建物の状態は良好です。施設は、休憩所、トイレ、シャワーを有し、駐車場は230台確保しています。

海岸沿岸部に配置されているため、塩害により建物の老朽化の進行が早くなり、定期的な維持補修が欠かせない施設となっています。また、施設の利用状況が、海水浴場開設時をピークとして季節によって大きく変化しているため、利用状況に応じた適正な管理が課題となっています。

近年では、年間を通してサーフィンなどのマリンスポーツ観光客に利用され、海岸便益施設としてなくてはならない施設となっています。

◆ 長熊釣堀センター

本施設は、昭和63年に建設され、近年、釣堀全体と管理棟を大規模に改修したため、施設の状態は良好です。建物は、管理等のほかトイレ2棟、倉庫等の付属施設を有し、釣堀には6本の浮き栈橋を配しています。また、バリアフリー対応を進め、現在では多目的トイレの設置のほか浮き栈橋に車椅子での乗り入れが可能となっています。

年間の利用者が約17,000人と多く、施設運営費の9割以上が施設使用料等で賄われており、市の負担額も少ないことから効率的に運営されています。

平成25年度からは、指定管理者制度により民間運営に運営形態を変え、今まで以上に効率的で魅力ある施設としての施設運営が期待されています。

分類3 宿泊施設

① 施設概要

市内には、宿泊施設として海上キャンプ場と国民宿舎食彩の宿いいおか荘の2施設が設置されています。

海上キャンプ場は、平成6年に現在の施設に大きくリニューアルされ、平成21年に千葉県から譲受を受けて市の施設として運営しています。施設には8棟のバンガローのほか管理棟や炊事等などの便益施設を有し、また20張分のテントサイトを有しています。平成26年度からは指定管理者制度を活用して民間により運営されています。

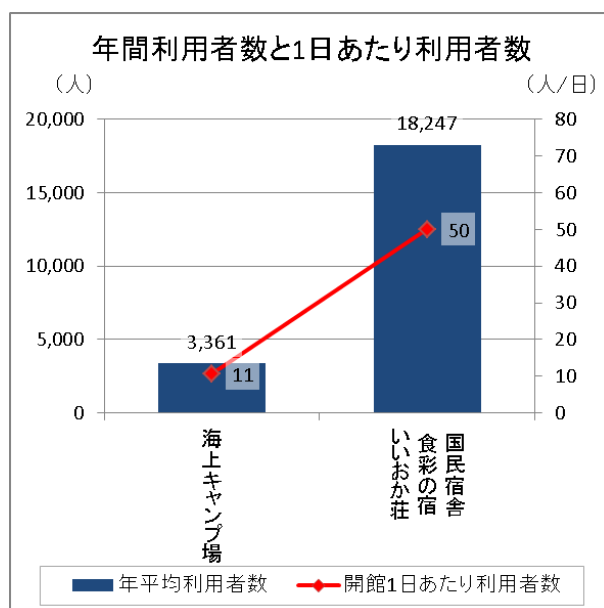
国民宿舎食彩の宿いいおか荘は、現在津波被害により利用を休止していますが、平成26年度からは防災資料館や津波一時避難施設を有した宿泊施設として民間により運営が再開される予定です。最も古い建物は昭和42年建設で、その後数度の増築を繰り返し現在の状況に至っています。施設の約9割が築後30年以上を経過していますが、平成20年に耐震改修を含めた大規模改修を行っていることで、津波被害を受けた箇所以外は概ね良好です。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
104	海上キャンプ場	797				
	管理棟	300		24	2018 (H30)	耐震性有(新耐震基準建物)
	実習棟	143		15	2009 (H21)	耐震性有(新耐震基準建物)
	ハト(バンガロー-A)	26		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	林ジロ(バンガロー-A)	26		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	コゲラ(バンガロー-A)	26		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	ヒヨトリ(バンガロー-A)	26		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	ジジュカラ(バンガロー-B)	20		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	エカ(バンガロー-B)	20		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	アジ(バンガロー-B)	20		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	メジロ(バンガロー-B)	20		22	2016 (H28)	耐震性有(新耐震基準建物)
	炊事棟	169		15	2009 (H21)	耐震性有(新耐震基準建物)
			1994 (H6)			
105	国民宿舎食彩の宿いいおか荘	3,653				
	本館	1,889	1967 (S42)	47	2014 (H26)	耐震性有(耐震改修済)
	本館増築棟	62	1981 (S56)	47	2028 (H40)	耐震性有(耐震改修済)
	便所棟	29	1982 (S57)	38	2020 (H32)	耐震性有(耐震改修済)
	浴室棟	87	1987 (S62)	34	2021 (H33)	耐震性有(新耐震基準建物)
	ロビー棟	87	1989 (H1)	34	2023 (H35)	耐震性有(新耐震基準建物)
	厨房棟	120	1990 (H2)	31	2021 (H33)	耐震性有(新耐震基準建物)
	配膳室棟	13	1990 (H2)	31	2021 (H33)	耐震性有(新耐震基準建物)
	EV棟	33	2004 (H16)	34	2038 (H50)	耐震性有(新耐震基準建物)
	新館	885	1970 (S45)	47	2017 (H29)	耐震性有(耐震改修済)
	新館増築	135	1977 (S52)	47	2024 (H36)	耐震性有(耐震改修済)
	会議室棟	271	1979 (S54)	34	2013 (H25)	耐震性有(耐震改修済)
	車寄せ	42	2007 (H19)	38	2045 (H57)	耐震性有(新耐震基準建物)

② 利用実態

過去数年間(海上キャンプ場は過去4年間、国民宿舎食彩の宿いいおか荘は利用休止前の平成19年度から21年度の3年間)の利用者数の平均値をみると、海上キャンプ場は約3,400人、国民宿舎食彩の宿いいおか荘は約18,000人となっています。国民宿舎食彩の宿いいおか荘の利用者数の内訳は、約12,000人が宿泊客数で、約6,000人が宴会等の休憩利用客数となっています。

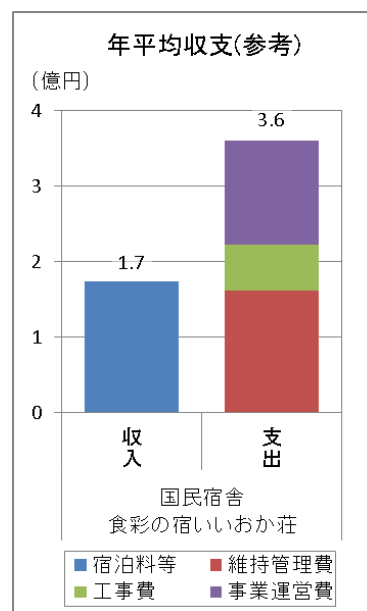
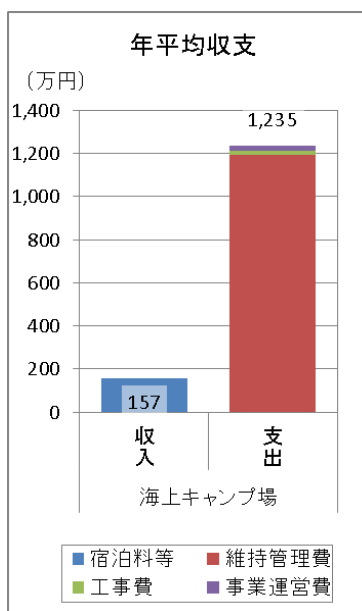
施設営業日当たりの利用者数を算出すると、海上キャンプ場の一日当たりの利用者数は11人、国民宿舎食彩の宿いいおか荘は50人となっています。



③ コスト分析

過去3年程度(利用休止期間除く)における、各施設の施設運営に係る年平均収支を見てみると、海上キャンプ場は、施設運営経費の約1,200万円に対し、施設使用料等の収入は約160万円と、収入の占める割合は13%程度となっています。利用者一人当たりの市の負担額は、3,208円となります。

国民宿舎食彩の宿いいおか荘(独立採算制で運営している施設で、市の会計手法と異なるため参考数値として集計しています。)は、施設運営経費の約3.6億円に対し、収入は約1.7億円となっています。支出が収入を大きく上回っているのは、平成20年のリニューアルオープンにあわせて実施した改修工事や什器の更新等による備品購入費が含まれているためです。



④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
104	海上キャンプ場		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	3	外壁塗装補修の必要性有
			バリアフリー対応	4	一部未対応。専用駐車スペースなし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	1日当たりの利用者数少ない
			費用効率性	2	利用者一人当たりの市の負担額が多い
105	国民宿舎食彩の宿いいおか荘		構造安全性	5	耐震性有(耐震改修済)
			建物健全度	4	大規模改修実施済(津波被災復旧必要)
			バリアフリー対応	2	一部未対応箇所有。エレベーター有
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価

⑤ 分析・課題抽出

◆ 海上キャンプ場

本施設は、平成6年に現在の施設に大きくリニューアルされ平成21年に千葉県から譲与を受けて市の施設として運営しています。施設は全て木造で統一されているため、耐用年数が短く算定され、今後10年以内に全ての建物が耐用年数を迎えます。建物は築後20年近くを経過するため、外壁等に老朽化が進行しています。今後外壁の防腐防水を目的とした塗装改修工事が必要となります。

利用者数は年間約3,400人で、開所日当たりの利用者数では1日当たり11人程度と少なくなっています。また、屋外活動を目的とした施設であるため、夏季に利用者が集中し、冬場の12月、1月にあってはほとんど利用者がいない状況で、通年での利用効率性の向上を目指した利用促進策や管理運営方法が課題となっています。

施設の運営費は、利用者一人に対して市が約3,200円を負担していることから、更なる効率的な運営が求められます。

平成26年度からは、指定管理者制度により民間運営に運営形態を変え、今まで以上に効率的で魅力ある施設としての施設運営が期待されています。

◆ 国民宿舎食彩の宿いいおか荘

本施設は、昭和42年に本館が建設され、その後数度の増築を行い現在の姿となっています。近年、耐震改修を含めた大規模改修を行い津波被害箇所以外は良好となっていますが、施設のほとんどが今後10年以内に耐用年数を迎えます。

現在休止している本施設は、平成26年度からは防災資料館や津波一時避難機能を併せ持った宿泊施設として民間により運営が再開される予定です。

(8) 生活環境関連施設

分類 1 水道施設

① 施設概要

市内には、上水道の供給施設として4つの配水場を設置し、東総広域水道企業団から受水した水道水を各配水施設に貯留した後、市民に生活用水を供給しています。

旭配水場は、昭和56年に建設され、管理棟などの建物のほか配水池(有効貯水量5,040 m^3)を配置しています。また、場内には、旭市水道お客様センターを設置し水道の開栓から料金収納に係る事務を民間委託にて運営しています。

海上配水場は、昭和56年に建設され、塩素滅菌棟などの建物のほか、配水塔(有効貯水量1,261 m^3)を配置しています。

飯岡配水場は、昭和56年に建設され、管理棟のほか配水池(有効貯水量1,920 m^3)を配置しています。

干潟配水場は、昭和56年に建設され、2つの管理棟のほか配水塔(有効貯水量1,226 m^3)を配置しています。

水道施設の多くが、築後30年を経過しており老朽化が進行しています。

No.	施設名	延床面積 (m^2) [貯水量 m^3]	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
106	旭配水場(水道庁舎)	805				
	配水池	[5,040]	1981(S56)	60	2041(H53)	基礎部に耐震性の課題あり
	管理棟	728	1981(S56)	50	2031(H43)	耐震性有(1s0.82)
	着水井・滅菌室	77	1981(S56)	50	2031(H43)	耐震性有(1s2.91)
107	旭市水道お客様センター	51	2009(H21)	30	2039(H51)	耐震性有(新耐震基準建物)
108	海上配水場	30				
	配水塔	[1,261]	1981(S56)	60	2041(H53)	耐震性なし
	塩素滅菌棟	18	1981(S56)	34	2015(H27)	(小規模建物)
	自家発電機棟	12	2000(H12)	34	2034(H46)	耐震性有(新耐震基準建物)
109	飯岡配水場	65				
	配水池	[1,920]	1981(S56)	60	2041(H53)	耐震性有
	管理棟	65	1981(S56)	38	2019(H31)	耐震性有(1s2.88)
110	干潟配水場	166				
	配水塔	[1,226]	1981(S56)	60	2041(H53)	耐震性有
	管理棟	75	1981(S56)	38	2019(H31)	耐震性有(新耐震基準建物)
	管理棟(工業団地)	91	1995(H7)	38	2033(H45)	耐震性有(新耐震基準建物)

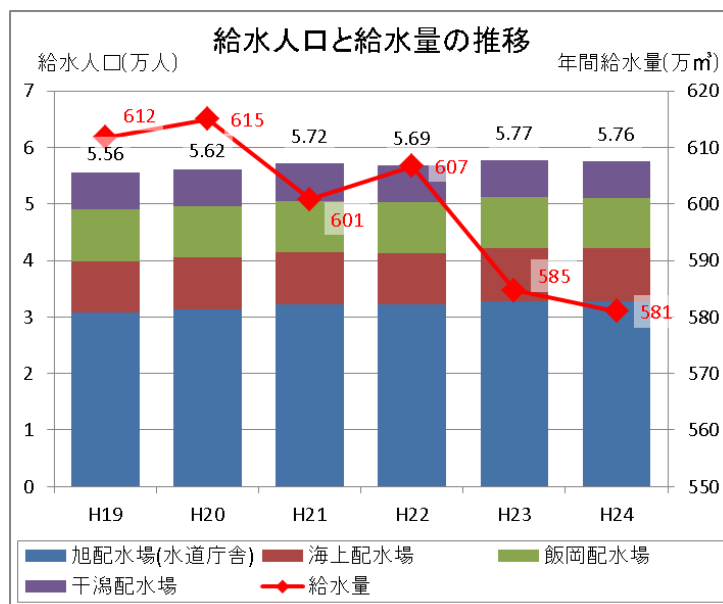
② 利用実態

水道の給水人口は、過去6年間で約2,000人増加していますが、給水量は31万 m^3 減少しています。

③ コスト分析

水道施設は、独立採算制で運営している公営企業で、市の会計手法と異なるため参考数値として集計しています。

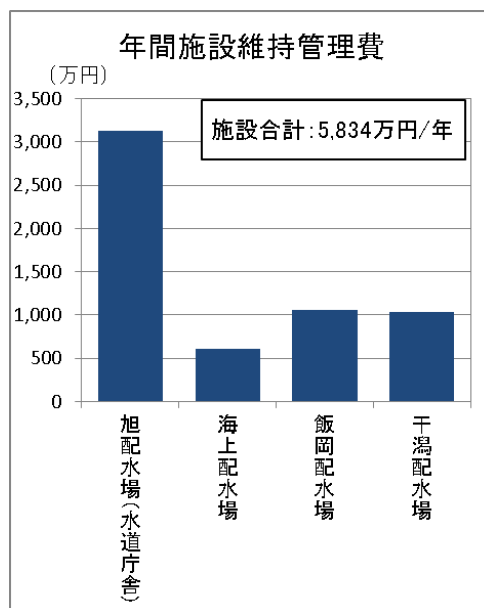
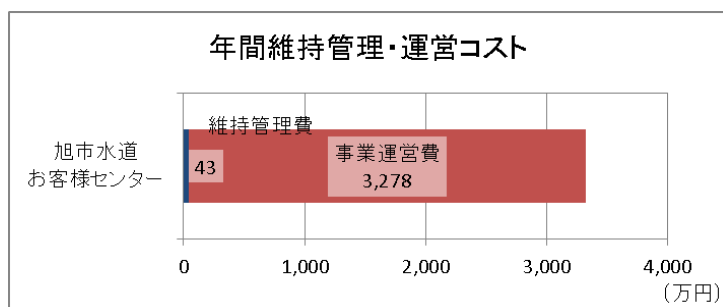
ここでは、施設の維持管理費についてのみ計上し、水道料金収入や工事並びに運営事業費を除いています。



過去5年間の各配水場の維持管理費では、4つの配水場の合計が平均で年間約5,800万円となっています。

旭市水道お客様センターは、建物は市が維持管理を行っていますが、水道の開栓から料金収納に係る事務は民間に委託しています。

旭市水道お客様センターの維持管理と事業運営にかかる費用は、年間約3,300万円となっています。



④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
106	旭配水場(水道庁舎)		構造安全性	5	耐震性有(Is0.82)
			建物健全度	2	老朽化の進行あり。設備等の修繕が増加傾向
			バリアフリー対応	1	未対応。エレベーターなし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
			環境安全性評価		
107	旭市水道お客様センター		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	4	一部未対応
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
			環境安全性評価		
108	海上配水場		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	2	老朽化の進行あり。設備等の修繕が増加傾向
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
			環境安全性評価		
109	飯岡配水場		構造安全性	5	耐震性有(Is2.88)
			建物健全度	2	老朽化の進行あり。設備等の修繕が増加傾向
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
			環境安全性評価		

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
110	干潟配水場		構造安全性	5	耐震性有
			建物健全度	2	老朽化の進行あり。設備等の修繕が増加傾向
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価

⑤ 分析・課題抽出

◆ 旭配水場(水道庁舎)

本施設は、昭和56年に建設され築後30年以上を経過し、施設の耐震性能は確保されていますが、設備類を含め老朽化が進行しています。また、施設内に配置された配水池は、一部防水塗膜の剥離や配管、弁類の腐食が見られ建物同様老朽化が進行し、基礎部には耐震性の課題を有しています。市民が安心して飲むことのできる水を安定して供給するためには、今後施設の計画的な改修等を行っていく必要性があります。

施設同様、市内に張り巡らされた水道管は既に敷設後30年以上を経過しており、今後順次耐用年数を迎え、管の更新の必要性が生じます。管の更新には莫大な費用が発生し、多くの財政負担を伴うことから、早期に対応を検討し計画的に進めていく必要性があります。

◆ 旭市水道お客様センター

本施設は、平成21年に水道の開閉栓や料金収納を行う事務所として旭配水場場内に建設され、民間委託によって運営されています。新しい施設であることから、当面の間施設の修繕の必要性は低いと考えられます。

◆ 海上配水場

本施設は、昭和56年に建設され築後30年以上を経過し、施設の耐震性能は確保されていますが、設備類を含め老朽化が進行しています。また、施設内に配置された配水塔は、一部防水塗膜の剥離や配管、弁類の腐食が見られ建物同様老朽化が進行し、配水塔の耐震性に課題があることから早急な対応が求められます。市民が安心して飲むことのできる水を安定して供給するためには、今後施設の改修等を検討していく必要性があります。

◆ 飯岡配水場

本施設は、昭和56年に建設され築後30年以上を経過し、施設の耐震性能は確保されていますが、設備類を含め老朽化が進行しています。また、施設内に配置された配水池は、一部防水塗膜の剥離や配管、弁類の腐食だけでなくコンクリートのクラックが見られ建物同様老朽化が進行しています。市民が安心して飲むことのできる水を安定して供給するためには、今後施設の改修等を検討していく必要性があります。

◆ 干潟配水場

本施設は、昭和56年に建設され築後30年以上を経過し、施設の耐震性能は確保されていますが、設備類を含め老朽化が進行しています。また、施設内に配置された配水池は、一部防水塗膜の剥離や配管、弁類の腐食が見られ建物同様老朽化が進行しています。市民が安心して飲むことのできる水を安定して供給するためには、今後施設の改修等を検討していく必要性があります。

工業団地用の配水管理棟は、平成7年に建設され築後20年未満であるため、施設の状態は良好です。当面、軽微な維持補修で対応可能です。

分類2 下水道・污水处理施設

① 施設概要

市内には、市民の快適な居住環境の提供と公共用水域の水質保全や海岸の環境悪化防止を目的に、公共下水道のほか農業集落排水処理施設などを6施設設置しています。

全ての施設が築後30年未満で、老朽化の進行は見受けられません。

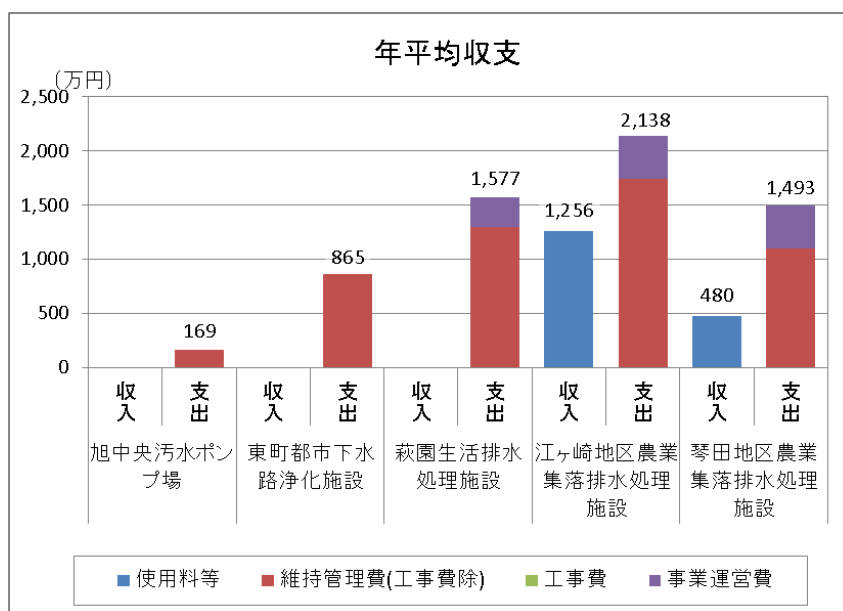
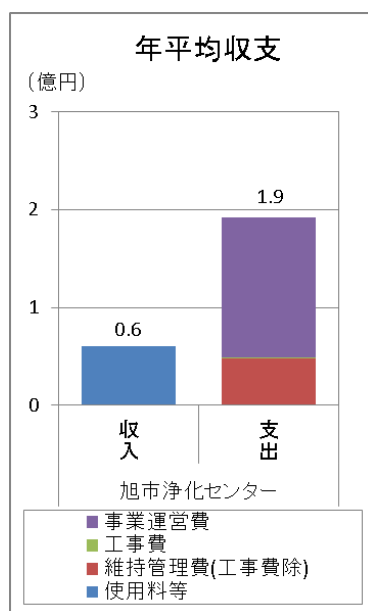
公共下水道は、現在でも認可区域の面整備を実施しています。公共下水道区域から排出される汚水は、旭中央污水ポンプ場を経由して旭市浄化センターで浄化処理が行われます。

萩園生活排水処理施設は、津波被害により一時休止していましたが、施設の改修を行い、現在では運転を再開しています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
111	旭市浄化センター	4,629	計画処理区域人口6,000人			
	管理棟	1,328	2000 (H12)	50	2050 (H62)	耐震性有 (新耐震基準)
	管理棟 別館	348	2000 (H12)	50	2050 (H62)	耐震性有 (新耐震基準)
	高段ポンプ棟	1,059	2011 (H23)	50	2061 (H73)	耐震性有 (新耐震基準)
	汚泥処理棟	1,669	2000 (H12)	50	2050 (H62)	耐震性有 (新耐震基準)
	塩素混和池棟	225	2000 (H12)	50	2050 (H62)	耐震性有 (新耐震基準)
112	旭中央污水ポンプ場	470	2012 (H24)	50	2062 (H74)	耐震性有 (新耐震基準)
113	東町都市下水路浄化施設	384	1993 (H5)	-	-	処理槽
						計画処理区域人口2,200人
114	萩園生活排水処理施設	146				計画処理区域人口4,200人
	処理施設	121	1992 (H4)	50	2042 (H54)	耐震性有 (新耐震基準)
	汚泥脱水施設	25	1992 (H4)	50	2042 (H54)	耐震性有 (新耐震基準)
115	江ヶ崎地区農業集落排水 処理施設	467	1998 (H10)	50	2036 (H48)	計画処理区域人口1,670人
						耐震性有 (新耐震基準)
116	琴田地区農業集落排水処 理施設	277	2001 (H13)	50	2039 (H51)	計画処理区域人口770人 耐震性有 (新耐震基準)

② コスト分析

過去5年間の各施設の年間の施設維持管理費と事業運営費を見てみると、公共下水道及び下水道類似施設の施設運営には多額の費用が必要となることが確認できます。污水处理において使用料を徴収している施設は、旭市浄化センターと江ヶ崎地区及び琴田地区の農業集落排水処理施設の3施設のみとなります。



③ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
111	旭市浄化センター		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	2	一部対応済。エレベーターなし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
112	旭中央汚水ポンプ場		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
114	萩園生活排水処理施設		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	4	概ね良好。津波被害からの復旧工事において設備等を更新
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
115	農業集落排水処理施設 江ヶ崎地区		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	2	設備類の老朽化が進展。不具合箇所増加傾向
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
116	農業集落排水処理施設 琴田地区		構造安全性	5	耐震性有(新耐震基準建物)
			建物健全度	2	設備類の老朽化が進展。不具合箇所増加傾向
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価

④ 分析・課題抽出

◆ 旭市浄化センター

本施設は、公共下水道の処理施設として平成12年に建設され、築後20年未満で老朽化の進行はありません。当面は軽微な修繕工事に対応可能です。

施設内には多数の処理施設を保有し、設備の運転管理は民間委託しています。

本施設は、運転を止めることのできない市民生活に重要な施設で、常に一定の機能を維持することが求められますが、多数の機械設備等を有し施設の維持管理には多額の費用がかかる施設であることから、適正な時期に大規模修繕等を行い新たな投資コストを抑制する必要があります。

今後は、効率的運営に向けた接続率の向上が課題となっています。

◆ 旭中央污水ポンプ場

本施設は、公共下水道の污水の中継施設として平成24年に建設されたばかりで老朽化の進行はありません。当面は軽微な修繕工事で対応可能です。

施設内には多数の機械設備を保有し、設備の運転管理は民間委託しています。

本施設は、運転を止めることのできない市民生活に重要な施設で、常に一定の機能を維持することが求められますが、多数の機械設備等を有し施設の維持管理には多額の費用がかかる施設であることから、適正な時期に大規模修繕等を行い新たな投資コストを抑制する必要があります。

◆ 東町都市下水路浄化施設

本施設は、昭和49年から57年に整備された東町都市下水路の水質悪化により、公共用水域の水質汚濁防止のため平成5年に建設された施設です。施設は、築後20年を迎え機械設備等の老朽化が進行している一方、現在では公共下水道を整備していることから、公共下水道の接続率が向上することで、本施設の役目を終える可能性もあり、今後は公共下水道の接続率や水質の状況に応じて施設のあり方を検討する必要があります。

◆ 萩園生活排水処理施設

本施設は、飯岡地区海岸水域の環境保全のため平成4年に建設された施設です。施設は、津波被害からの復旧によって、設備類を大きく更新したため、施設の状態は良好です。

今後も定期的な保守と適正な時期に設備更新を行うなど、機能維持に努める必要があります。

◆ 江ヶ崎地区農業集落排水処理施設

本施設は、平成10年に建設され、築後20年未満で比較的新しい施設ですが、設備類の老朽化が進行し、今後は設備類の大規模な更新等が必要となってくることが予想されます。また、非常時の施設運転用の発電設備が不足している状況です。

今後は、効率的運営に向けた接続率の向上が課題となっています。

◆ 琴田地区農業集落排水処理施設

本施設は、平成13年に建設され、築後20年未満で比較的新しい施設ですが、設備類の老朽化が進行し、今後は設備類の大規模な更新等が必要となってくることが予想されます。また、非常時の施設運転用の発電設備が不足している状況です。

今後は、効率的運営に向けた接続率の向上が課題となっています。

分類3 ごみ処理施設

① 施設概要

市内には、市民の生活環境の保全や公衆衛生の向上を図るため一般廃棄物の処理を行うクリーンセンターのほか、廃棄物の最終処分場としてグリーンパークを設置しています。既に埋め立てを終えた最終処分場では、現在浸出水等の監視を行っています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
117	クリーンセンター	3,766				
	粗大ごみ処理施設	405	1983 (S58)	38	2021 (H33)	耐震性有(新耐震基準建物)
	管理棟	304	1992 (H4)	31	2023 (H35)	耐震性有(新耐震基準建物)
	焼却施設	2,604	1992 (H4)	38	2030 (H42)	耐震性有(新耐震基準建物)
	資源ごみ選別処理施設	120	1997 (H9)	38	2035 (H47)	耐震性有(新耐震基準建物)
	ごみ計量所	7	2008 (H20)	15	2023 (H35)	(小規模建物)
	資源ごみ用ストックヤード (ペットボトルヤード)	189	1997 (H9)	31	2028 (H40)	(小規模建物)
	資源ごみ用ストックヤード (その他資源ヤード)	138	1997 (H9)	38	2035 (H47)	(小規模建物)
118	グリーンパーク	558.26	1997 (H9)	31	2028 (H40)	埋立容量:168,400㎡ 耐震性有(新耐震基準建物)
119	一般廃棄物最終処分場	(敷地) 1,164	1981 (S56)	-	-	埋め立て完了 浸出水等の監視のみ実施

② 利用実態

クリーンセンターは、年間約24,000トンのごみ処理を行っています。

一般家庭から排出されるごみは、市がステーション方式により収集を行っていますが、事業所からのごみなど直接処理場に搬入されるものだけでも年間10万件を超える状況です。

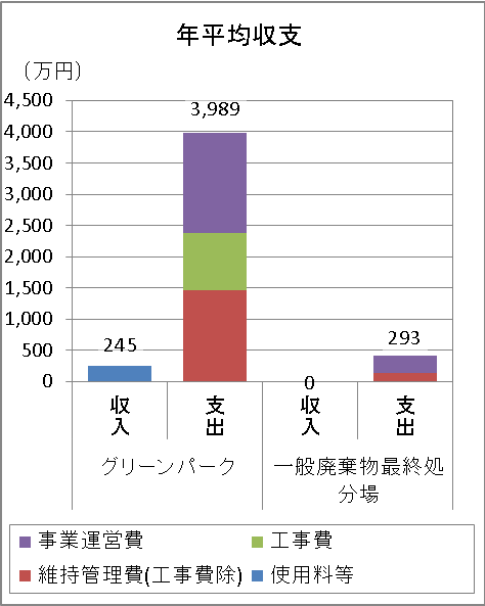
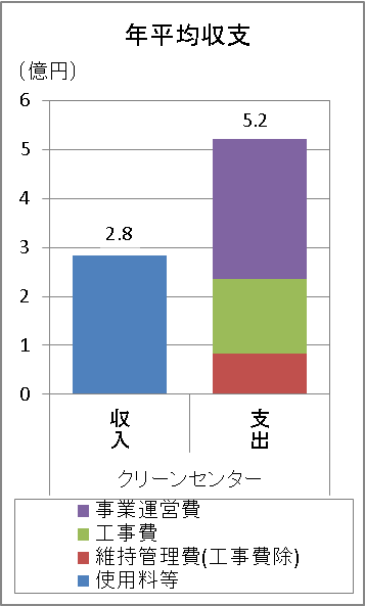
③ コスト分析

一般家庭から排出されるごみの収集・処分にかかる費用の一部は、排出時に必要な指定ごみ袋の購入時に、手数料を徴収しています。

過去5年間の施設運営にかかる費用の平均を見てみると、クリーンセンターでは、焼却炉の修繕など年間1億円を超える工事費が支出されています。

ごみ処理にかかる市の負担額は、年間約2.8

億円となり、市民一人当たりの負担額では、約4,000円となっています。



④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
117	クリーンセンター		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	継続した修繕実施により良好
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	1	アスベスト含有吹付材使用状況未調査
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価
118	グリーンパーク		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	継続した修繕実施により良好
			バリアフリー対応	3	評価対象外
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	未評価
			費用効率性	3	未評価

⑤ 分析・課題抽出

◆ クリーンセンター

本施設のごみ焼却施設は、平成4年に建設され築後20年を経過し、老朽化が進行しています。焼却炉の処理能力は、2炉で1日当たり95トンと現在のごみ排出量に対して能力は充足しています。

焼却施設は、炉の機能維持のほか焼却による排出ガスの環境安全性を高めるために、適正な維持管理が欠かせない施設となっていますが、焼却炉等の維持補修費は、築年数の経過による老朽化対策を含め増加傾向にあり、多額の費用を要していることが課題となっています。

現在、本市を含めた近隣3市でのごみ処理の広域運用が計画されており、新たなごみ処理施設の運用開始後においては、現在の施設のあり方の検討が必要です。

◆ グリーンパーク

本施設は、クリーンセンターから搬出される焼却灰や不燃ごみ等の埋立処理を行う最終処分施設で、平成9年から供用を開始した施設です。管理棟などの建物の状態は良好ですが、埋立容量には限りがあり、延命化対策を進めているものの近い将来には埋立量が満杯となる予定です。なお、現在は広域運用での最終処分場建設が計画されています。

◆ 一般廃棄物最終処分場

本施設は、一般廃棄物の最終処分場として設置されていましたが、現在では埋立処理が終了し浸出水等の処理、監視等を実施しています。今後は、浸出水等の処理、監視をいつまで実施するかなど県との協議が必要となってきます。

分類4 公衆トイレ

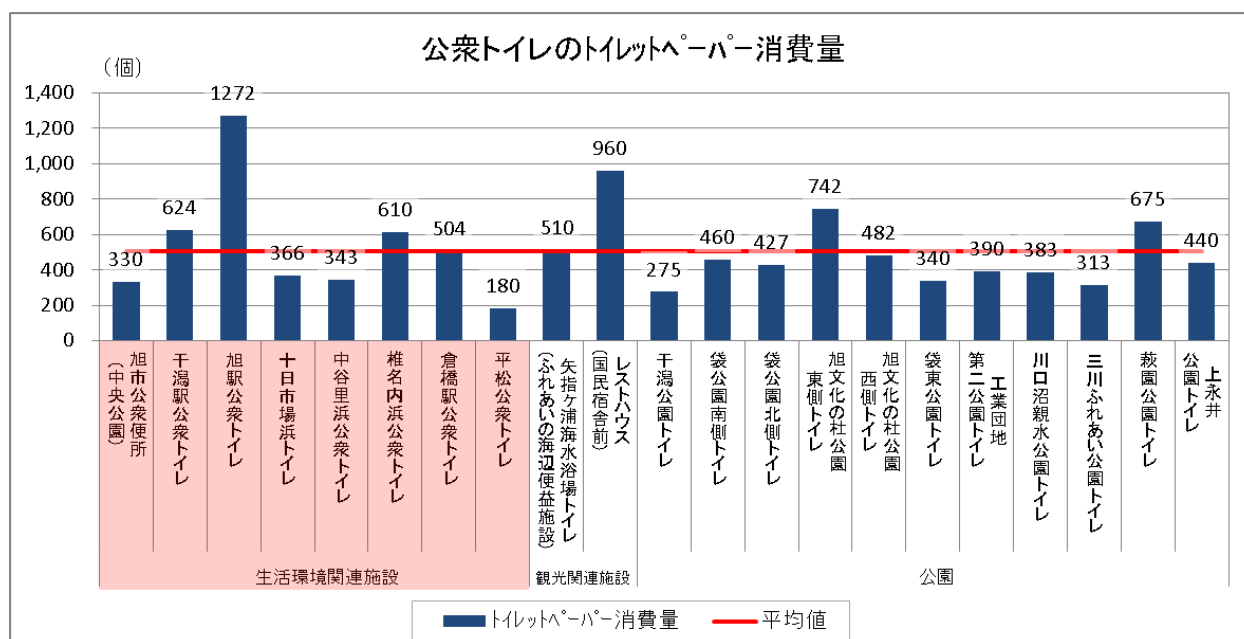
① 施設概要

市内には、市民の利便性や公衆衛生の向上を図るため公衆トイレを8施設設置しています。
また、本施設のほか都市公園等には公園利用者の利便性向上のため同種のトイレを設置しています。

No.	施設名	延床面積 (㎡)	建築年	耐用年数	耐用期限	備 考
120	旭市公衆便所(中央公園)	17	1990 (H2)	38	2028 (H40)	耐震性有(新耐震基準建物)
121	干潟駅公衆トイレ	35	2010 (H22)	38	2048 (H60)	耐震性有(新耐震基準建物)
122	旭駅公衆トイレ	39	2010 (H22)	38	2048 (H60)	耐震性有(新耐震基準建物)
123	十日市場浜トイレ	14	2009 (H21)	38	2047 (H59)	耐震性有(新耐震基準建物)
124	中谷里浜公衆トイレ	25	2005 (H17)	38	2043 (H55)	耐震性有(新耐震基準建物)
125	椎名内浜公衆トイレ	28	2010 (H22)	38	2048 (H60)	耐震性有(新耐震基準建物)
126	倉橋駅公衆トイレ	19	1999 (H11)	38	2037 (H49)	耐震性有(新耐震基準建物)
127	平松公衆トイレ	8	1996 (H8)	38	2034 (H46)	耐震性有(新耐震基準建物)

② 利用実態

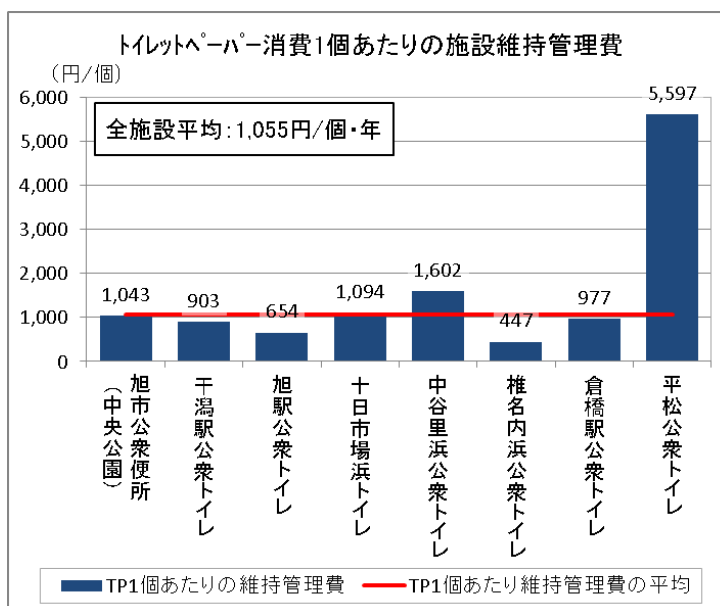
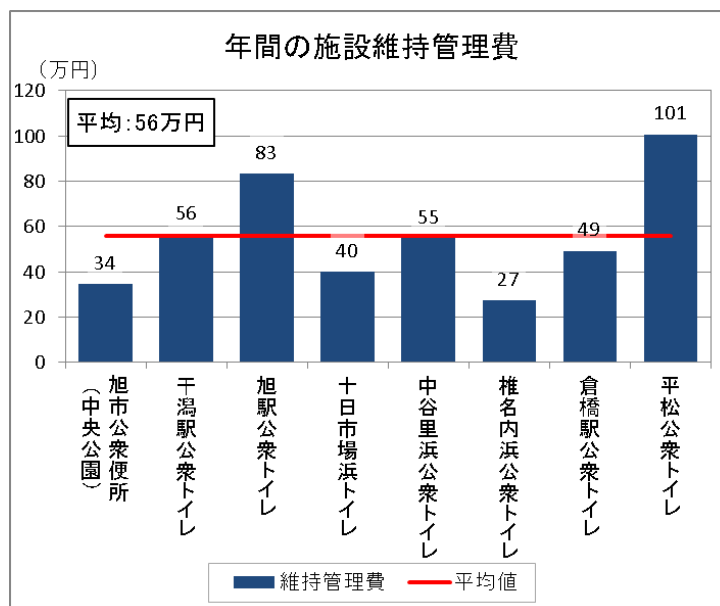
公衆トイレの利用者数は正確に確認することが出来ないため、各施設の年間のトイレトーパーの消費量で比較すると、最も消費量が多い施設は、旭駅公衆トイレの1,272個で、最も少ない施設は平松公衆トイレの180個となっており、その差は約7倍となっています。



③ コスト分析

過去5年間の年間の施設維持管理費を施設ごとに比較すると、最も多いのは、平松公衆トイレの約101万円で、最も少ないのは椎名内浜公衆トイレの約27万円となっており、その差は3倍以上となっています。

トイレットペーパーの消費1個当たりの施設維持管理費を比較すると、最も多いのは平松公衆トイレの約5,600円で、最も少ないのは椎名内浜公衆トイレの約450円となっており、その差は10倍以上となっています。



④ 施設評価

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
120	旭市公衆便所 (中央公園)		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	4	一部老朽箇所有
			バリアフリー対応	5	多目的トイレ有
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	単位面積当たりの想定利用者数少ない
			費用効率性	3	想定利用者数当たりの維持管理費は平均的
			環境安全性	5	問題なし
121	干潟駅公衆トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	5	多目的トイレ有
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	2	単位面積当たりの想定利用者数少ない
			費用効率性	4	想定利用者数当たりの維持管理費は少ない
			環境安全性	5	問題なし

No.	施設名称	評価グラフ	評価項目	評価	内容
122	旭駅公衆トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	5	多目的トイレ有
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	5	単位面積当たりの想定利用者数多い
			費用効率性	4	想定利用者数当たりの維持管理費は少ない
123	十日市場浜トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	2	多目的トイレなし
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	単位面積当たりの想定利用者数多い
			費用効率性	3	想定利用者数当たりの維持管理費は平均的
124	中谷里浜公衆トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	5	多目的トイレ有
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	1	単位面積当たりの想定利用者数少ない
			費用効率性	3	想定利用者数当たりの維持管理費は平均的
125	椎名内浜公衆トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	5	多目的トイレ有
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	単位面積当たりの想定利用者数は平均的
			費用効率性	4	想定利用者数当たりの維持管理費は少ない
126	倉橋駅公衆トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好
			バリアフリー対応	5	良好
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	4	単位面積当たりの想定利用者数多い
			費用効率性	3	想定利用者数当たりの維持管理費は平均的
127	平松公衆トイレ		構造安全性	5	新耐震基準建物
			建物健全度	5	良好(H23施設改修済)
			バリアフリー対応	5	良好
			環境安全性	5	問題なし
			利用効率性	3	単位面積当たりの想定利用者数は平均的
			費用効率性	1	想定利用者数当たりの維持管理費は多い

⑤ 分析・課題抽出

※ここでの「想定利用者数」とは、トイレットペーパーの消費量を利用者数に置き換えて使用しています。

◆ 旭市公衆便所（中央公園）

本施設は、平成2年に建設され築後20年を経過していますが、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で平均的ですが、単位面積当たりの想定利用者数はやや少ない状況です。

◆ 干潟駅公衆トイレ

本施設は、平成22年に建設された新しい施設で、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で少ない状況ですが、単位面積当たりの想定利用者数はやや少ない状況です。

◆ 旭駅公衆トイレ

本施設は、平成22年に建設された新しい施設で、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で少なく、単位面積当たりの想定利用者数も多いことから、効率的に運営されています。

◆ 十日市場浜トイレ

本施設は、平成21年に建設された新しい施設で、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレは未設置となっています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で平均的ですが、単位面積当たりの想定利用者数が多いことから、効率的に運営されています。

◆ 中谷里浜公衆トイレ

本施設は、平成17年に建設された比較的新しい施設で、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で平均的ですが、単位面積当たりの想定利用者数が少ないことから、やや効率性に課題があります。

◆ 椎名内浜公衆トイレ

本施設は、平成22年に建設された新しい施設で、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で少なく、単位面積当たりの想定利用者数は平均的な状況です。

◆ 倉橋駅公衆トイレ

本施設は、平成11年に建設され築後10年を経過している施設で、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で平均的ですが、単位面積当たりの想定利用者数が多いことから、効率的に運営されています。

◆ 平松公衆トイレ

本施設は、平成8年に建設され築後10年を経過している施設ですが、津波被害からの復旧工事を含めた改修工事を実施したことで、施設の状態は良好です。当面の間は、軽微な修繕で対応可能です。また、車椅子利用者などの利用に配慮した多目的トイレを設置しています。

想定利用者数当たりの施設維持管理費は市内の公衆トイレの中で最も多く、単位面積当たりの想定利用者数が平均的で、やや効率性に課題があります。